



フジテレビ
- CSR 報告書 -
2016

わたしたちにできることを もっと、もっと。



私たちの原点は放送です。
テレビを通じて国内外で今、起きていること、
日々の暮らしに役立つ生活情報、
笑いや楽しみ、感動を届けること。
それがメディアの役目。
番組・エンターテインメントを通じて人と人をつなぎ、
そこに夢や希望が生まれ、
明るい未来への懸け橋になれば…
CSR活動も本業を活かし、
フジテレビらしさを大切に
「わたしたちにできることを もっと、もっと。」

編集方針

本報告書はフジテレビが2015年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってまいりました。活動内容はホームページを通じて随時公表していますが、本報告書はより読みやすく、皆さまにご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。ホームページと合わせてご覧いただければ幸いです。<http://www.fujitv.co.jp/csr/>
ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せ下さい。
フジテレビ放送文化推進局 CSR推進室
✉ csr.ss@fujitv.co.jp

● 対象範囲

本報告書における対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものと掲載しています。

● 対象期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)
一部2016年4月の活動も含まれます。

● 参考ガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポートガイドライン第4版(G4)」

CSR推進体制

フジテレビではメディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月にCSR専門部署を設置。

社長を委員長とする「CSR推進会議」を設け、年に一度、社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議しています。



● フジテレビ行動宣言

次の時代に向かってフジテレビが目指すべき「行動目標」を掲げています。



CSRプロジェクトチーム

フジテレビのCSR活動の中心となっているのは、各部署から選出されたCSRプロジェクトチームメンバーです。月に一度、活動報告や情報交換を行う会議を開催している他、週1回の分科会で新しい企画を検討、「ボトムアップ」型のCSR活動を実施しています。また社内のCSRへの理解の浸透を図るため、メンバーを毎年入れ替えています。2015年度は新しい試みとして、社内SNS[Yammer]を活用した情報共有を行いました。



2015年度CSRプロジェクトチームメンバー(48人)



社内SNSを活用し情報共有

● フジテレビのアナウンサーがCSR活動に積極的に参加しています！

フジテレビのCSR活動を様々な場面で支えるアナウンサー集団「エコアナ」現在38人
イベントの進行や朗読などの社会貢献活動や地域の美化活動・勉強会への出席、ホームページへの寄稿など、「エコアナ」活動を積極的に展開中です。



他20人



亀山千広社長とCSRプロジェクトチームメンバー4人が、2015年度に行った社会貢献活動を振り返りつつ、CSRに対する考え方などについて意見を交わしました。

視聴者のために番組を作り、放送することがテレビ局の一番の社会貢献

佐々木 CSR社内横断プロジェクトチーム(以下PT)メンバーがこうやって社長とCSRについて話す機会は初めてです。今日はこういう席をありがとうございます。

社長 いやーとんでもない。むしろ楽しみにしていました(笑)。

佐々木 2015年度もPTメンバーが積極的に色々メッセージがある企画を提案してくれました。まずはバラエティの山本さん(97年入社)。山本さんは、夏のイベントで、猛暑の中来てくれるお客さんにミストをかける「ミストマン」の発案者。



ミストマン

社長 お疲れさま。現場と両立大変でしょう。昼帯の生番組『バイキング』やりながらCSRもやって…。

山本 いや、逆に現場にいるからこそやらないと、と思っています。バラエティの現場ではCSRのことは、あまり知られていない、もっと広めないといけないと思っています。あとは会社としてできることなら、なんでもやりたいという気持ちです。

ミストマンも、もう4年になるんですけど、社長とも現場でよくお会いします。

社長 これ社員にもミストマンやらせてるでしょ?みんな楽しいって言ってるね。

山本 4年もやってると、お客さんが私の顔もけっこう覚えてくれていて、声かけて下さるんですよ。一緒に写真撮ったりとか。他の社員にもそういう経験

をしてほしくて社員ミストマンを始めたんです。

佐々木 私もやりましたよ、楽しかったー。担ぐだけでみんなが来てくれる。「ちょっとかけてー」て。急に人気者になった気分。

山本 最初は暑さ対策ではじめたんですけど、そのうち定着してきて、ミストマンに会いたいから来るって言って下さるお客さんもいて。たまに手紙を頂くんですよ。中には「色々つらいことあってもお台場に連れてくると子どもが笑顔になるからついお台場に通っちゃいます」とか書いて下さったり…。こういうテレビとは違うところでファンを増やすことも大事だなと思いました。



佐々木 恭子
KYOKO SASAKI

1996年アナウンサーとして入社。『報道2001』や『とくダネ!』等の司会を経て、現在は『みんなのニュースWEEKEND』『ワイドナB面』他担当。

社長 お台場で夏のイベントを始めた(2003年)きっかけは、テレビ番組を作っていると視聴者の顔ってなかなか見えないじゃない? その頃僕は映画を作る部署にいて、劇場に行ってお客さんを見ていたわけ。そうすると、笑ってほしい時にちゃんと笑ってくれたり、泣いてほしい時に泣いてくれたり、逆にそうでなかったりすると「あーここは失敗だったんだな」と、お客さんの顔が見える。でもテレビって、視聴率という無味乾燥な数字だけで勝った、負けたっていうのがものすごく味気なくて。だから視聴者の顔を見たいためにイベントを始めたようなもの。ここに来てくれる人はたぶんフジテレビのファンで、この人たちがフジテレビの視聴者なんだ、と。たとえば人気番組のブースに行くと、それなりの年齢層がちゃんと来てくれると同時に、こんな子どもたちがいっぱいいるんだとビックリもする。だからその人たちの顔をよく覚えていてくれ、この人たちが自分の番組の視聴者なんだぞ、と作り手たちが知ることで、やっちゃいけないこと、ぎりぎりまで止めなければいけないことがわか



山本 布美江
FUMIE YAMAMOTO

1997年入社。バラエティ番組『あいのり』『人志松本のすべらない話』などの制作を経て、現在は平日昼の『バイキング』を担当。

る。視聴者を知るということは、すごい社員教育にもなると思った。

佐々木 自分たちがやったことがダイレクトに喜んでもらえるという経験が、番組作りにフィードバックされるかもしれませんね。社長は常々「放送自体がCSRなんだ」っておっしゃっていますが、その思いの源をうかがってもいいですか？

社長 そもそも放送は、放送法によって「公共の福祉に適合するよう規律(第一条)」されているから、放送法に則って放送することはすなわち社会的責任。昔プロデューサーだったころ高視聴率取ってちょっと調子に乗っていたら、あるスポンサーから、「勘違いしないで下さい。亀山さんの番組が面白いから買っているわけではないですよ、あなたの番組に人が集まるから買っているんです。だから私の方ではなくお客さんの方だけ見て下さいね」と言われた。極めて正しいと思った。確かに民放だからスポンサーには向き合わなきゃいけないんだけど、お客さんが一番楽しいことを常に考えればいい。視聴者目線、視聴者が何を望んでいるか、何を喜んでくれるかだけ考えて提供すればいいんだと。だからCSRと言うとすぐ何か世の中にいいことしなきゃと思ったりするけどそんなかしこまる必要は全くなくて、視聴者のために、という目線で作り、放送することがテレビ局の一番の社会貢献。報道・情報は、早く、正しく真実を伝えることが大事。一方、ドラマ、バラエティ、フィクション系はどれだけイマジネーション、視聴者に想像してもらえるか。ラブストーリーだけど、同時に環境問題が裏テーマですよというようなことをどう見せられるか。CSRも同じ。「いいことやろう」だけじゃ伝わらないし誰も動かない。

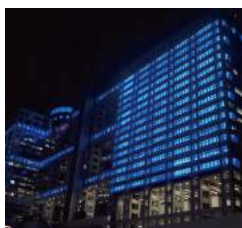
たった1色のライトも放送と連動することで強い発信力に

佐々木 2015年度のCSR活動は、PTメンバーからこういうことをやりたいと提案して、コラボレーションという形でスタートしたものが多かった。北野さん(05年入社・情報システム)の「グリッター8」を活用した企画もそうですね。

北野 もともとは台場からダイバーシティ(=多様性)社会へ向けたメッセージを発信したいと思って色々な企画を考えていました。

社長 大プレゼンを受けたよ(笑)。そのうちの1つがこれで。ぜひやらせてくれ!と。

北野 はい。その時にフジテレビには社屋全体をライトアップする「グリッター8」という仕組みがすでにあっただけ、それを使って社屋を特定の色に染めようと(詳細は11、12ページ)。それで様々な状況下で生きづらさを感じている人に支援のメッセージが伝えられたらと考えました。



世界自閉症啓発デー



社長 経営者として言わせてもらおうと、この「グリッター8」は設置の初期投資も維持費もバカにならないのに、都条例などで宣伝などには使えない。何かもっと活用できないかと思っていたところに、アウェアネススカラーのアイデアを出してくれた。

佐々木 それが今、台場エリアに徐々に広がりつつあるんですね？

北野 はい。東京臨海副都心まちづくり協議会とも連動して、他の施設に声をかけたところ、ゲートブリッジ、東京ビッグサイト、デックス東京ビーチと、どんどんライトアップに協力してくれる施設が増えていて、地域の取り組みとして、お台場から発信していく、という形ができています。2月にイエローリボン(※日本における障害者権利条約発効日)の点灯を行った時に、障がい者の社会参加を推進している団体の方が、フジテレビがこういうことをしたことをとても喜んで下さって、もともと電波ってすごく発信力がありますが、「ライトアップ」という形で具体的にアクションを起こすことで、世の中でマイノリティ=弱者と言われている方々に支援のメッセージを発信している、ということが伝わったんだと、すごく感じました。

実は先日、社内で普段あまり話さない方から声をかけてもらったんですが、身内に発達障がいのあるお子さんがいらっやっみたいで、「会社としてああいうことをやってくれて誇らしい」と言われたんです。本当にやってよかったと思いました。

佐々木 「グリッター8」のことはニュースでも取り上げるんですけど、1つ1つの社会課題ってちゃんと説明しないと伝わりきらないんじゃないかと思っていたら、オレンジリボンの時に30秒放送しただけで視聴者の方から「児童虐待について知るきっかけになりました。」というコメントを頂いたんです。その時、たった1色のライトを発信することで、視聴者の方が知るきっかけになったんだなと思いました。放送とも連動した新しい形の発信になりましたね。

北野 でもこれもすべて全社的な協力があってできているので。

社長 あれやるために業務中にみんなブラインドを下して、外の景色を見られなくするわけだからね。一番大切なのは社内の人間がどこまで理解しているか。あれ何?こうこう、あっそうなんだ、というところで認識が広まって社員みんながそういう気持ちになっていくことが大事。



北野 雄一
YUICHI KITANO

2005年入社。バラエティ制作、営業を経て、2011年から情報システム局でシステム開発業務を担当。

社会に対するメッセージを どんなラッピングをして伝えるかが 力のみせどころ

佐々木 私がプロジェクトリーダーをやっている出前授業の「あなせん」も、夏のイベントで技術チームとコラボして公開授業をやったんですが、これもCSRメンバーの発案で、本物のテレビカメラなどの機材をもってきてくれて説明してくれたり、実際に子どもたちに触らせてあげたり。技術チームが主体となってやってくれたんですよ。しかも入社2、3年目の人たちが率先して来てくれた。「僕の仕事をみんなに紹介したいし、子どもたちにも知ってほしいし、最終的にはフジテレビのファンになってほしい」と。



本物のカメラにふれる子どもたち

社長 やはりファンを増やす、番組を作る人は少しでも視聴率をあげたい、見る人を多くするには、どうやったらいいだろうと葛藤している。作っている以上、伝えたい、多くの人に見てもらいたい。作れたらそれでいい、じゃ社会貢献にならない。メッセージをもって伝えることがすごく大事。社員それぞれが社会に対してメッセージを持って、それをドラマなり、映画なり、ドキュメンタリーなど、どんなラッピングして伝えるかが力のみせどころ。テレビ局に入ってくるなら伝えたいメッセージをもっていないと。ただ、いいことするとかメッセージを伝えるって照れるじゃない？

佐々木 フジテレビのCSR活動は、どれもフジテレビらしくラッピングする、というところがありますよね。

社長 いいことやって照れるんですよ。なかなか勇気がいる。電車で目の前におばあちゃんがいて席立たなきゃと思うけどちょっと恥ずかしいなというときがある。そうすると横から「どうぞ」と学生に先越されて「あ～やっときゃよかった…」と妙な後悔があったりする。だから照れを笑いか、ミストマンみたいにキャラクターイベントに変えてみたり、楽しんでやれるのがいいよね。

三竹 そうですね、自分たちが楽しくないと相手にも伝わらないと思うので。業務で苦痛になっちゃうといけないと思っています。

佐々木 三竹さん(94年入社)を中心に美術が主体となって継続して行っている被災地復興支援「こども笑顔プロジェクト」も、どうやったら楽しくなるかを常に考えていますよね。

三竹 はい。「こども笑顔プロジェクト」



こども笑顔プロジェクト

ト」(詳細は35ページ)は2013年からやっていて、2015年度は台風26号で大きな被害を受けた伊豆大島に行きました。

社長 すごくテレビ局らしい活動で、被災地に限らず、もっと全国的に展開できたらいいと思う。

三竹 ゆくゆくは児童養護施設などにも行きたいと思っています。2015年度は10月に小学校で出前授業をやったんですが(詳細は18ページ)、その時は美術のお仕事の中でも「メイクバージョン」をやったんですね。それがとても好評だったので、かつら、衣装バージョンなど被災地以外でもやりたいと考えています。

佐々木 子どもたちの反応はどうだったんですか？

三竹 自分たちが思っていたよりもすごく喜んでもらえて、うれしかったです。出前授業の時に自己紹介で、「月9」のドラマのエンドロールに名前が出ているのを見せたら、後ろにいたお母さんたちが「あ～！」ってなって、子どもたちの顔つきが変わりました。がぜん尊敬のまなざしで…(笑)こうやってたくさんの方が自分たちが作っている番組を見てくれているんだと知って、まだまだテレビも捨てたもんじゃないなと感じました。



社長 そうやってみんなが一生懸命やって、何百人、何千人と出会った中の1人、2人は、もしかしたらモノづくりに興味をもってくれて、中にはフジテレビに入ってくる子もいるかもしれない。いろんな出会い、人生の可能性を提示するのも立派なCSR。

三竹 そうなったらうれしいですね。今は美術の世界も人手不足で、こういう仕事もあるんだよってわかってもらって、少しでも興味を持ってもらえたらという思いも正直あります。

佐々木 それで番組やテレビのファンが増えればなおいいですもんねー。

社長 テレビって常に人を相手にするもの。多くの人と触れ合ったり、普通ではなかなかできないことを代わりにやるのがテレビなんじゃないかなと常々思っている。

佐々木 それで目の前の人喜んでくれると、また明日から頑張ろうみたいな気持ちになって、自分の仕事のやりがいにもつながるような気がするんですよね。

北野 僕は、テレビ局は半分「株式会社」半分「公共インフラ」だと思っていて、じゃあ公共として、どのような使命をもって今の時代に何をやるべきかという視点で「グリッター8」も考えたんです。そういう気持ちでいたら、社内外の人と使命感を共有できすごくやりがいを感じています。



三竹 寛典
HIRONORI MITAKE

1994年入社。ドラマ、営業を経て2004年から美術制作局。現在は主にドラマや情報番組のセットをプロデュース。



私たちは人をつなぎ、人が集まる場所を提供している。
だからこそ、見てくれる、そこに来てくれる人を大事にしないといけない。

社長 番組を作っている時に、本当にお客さんは見てくれているんだろうか、ただ情性でテレビつけているだけなんじゃないかって、すごく不安があったけど、映画を作るようになって、劇場行くとチケットを買うところで小さい男の子が「踊る大捜査線4枚！」って家族の分を買いに来てたりするわけ。千円札握りしめてさ。ほんと、涙出るくらい感謝する。あーこういうことなんだ、ヒットさせたいと思って作ったけど、もしかしたらひょっとして自分はそれよりいいことをやっているかもしれないと一瞬思えた。たぶんそのあと食事に行ったりとかもするだろう、そんな家族がつながるきっかけを作っていると思うと、もっと面白いもの作らなきゃという気持ちになってくる。

山本 よくよく考えると、どの番組もやっていること全部社会とつながっていると思う。放送自体、バラエティ作ってること全部がCSRだと思っています。

佐々木 CSRの意味、重要性をもっと私たちプロジェクトメンバーが周りに伝えないといけないですね。

フジテレビがやっていることそのものがCSRでなければならない

佐々木 …さて、そろそろ時間ですので、最後に社長が2016年度CSRに望むことはなんですか？

社長 あらためて言うと、テレビは番組を作っている人と視聴者とのコミュニケーションだし、それに加えて番組を見た人同士のコミュニケーションも作り出している。

そういうこと1つ1つが社会に対しての貢献だと思う。私たちは人をつなぎ、人が集まる場を提供しているわけで、だから、見てく

れる、そこに来てくれる人を大事にしないといけない。お客さんや視聴者が楽しむことを常に考えることが一番の社会貢献じゃないかと思う。本業をしっかりやるのが第一義。放送を通じて笑ってもらったり、時には泣いたり、ニュースなどで事実をちゃんと伝えたり…免許を頂いてやっている以上、ある意味公器として社会に貢献する義務があるわけで、フジテレビがやっていることそのものがCSRでなければならないと思います。だから社員には、みんながやっていることすべてCSR的な側面があるんだという意識をもってほしい。それは別に堅苦しく考えるのではなく、自分が楽しまなきゃいけないし、その結果がファンを増やすことであったり、手紙をもらったり、視聴者との触れ合いだったりする。それは実際に経験できることなんだから、ぜひやってほしいと思う。

佐々木 会社の偉い人もぜひやって下さい。

社長 いいよ！でも“役員”ミストマンとか想像してみ？

山本 そうですね、お客さまからクレームがこない程度で(笑)。

社長 「グリッター8」もそうだけど、その他のCSR活動についても、実は社内の人間が知らないことが多いので、社内の理解を深めていくことも大事だよ。僕はみなさんのやっていることも含めて、考えてくれて、意識持ってくれることが大事だと思うので、社内に向かって言い続けます。



Fin.

私たちは番組・映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて、
笑いや感動、情報をお届けしています。



めざましテレビ



みんなのニュース



ユアタイム



HERO'S



Mr.サンデー

テレビで笑う…テレビでときめく…テレビで感動する…テレビで知る



信長協奏曲



超ハマる! 爆笑キャラバレード



スカッとJAPAN



ラブソング



サザエさん



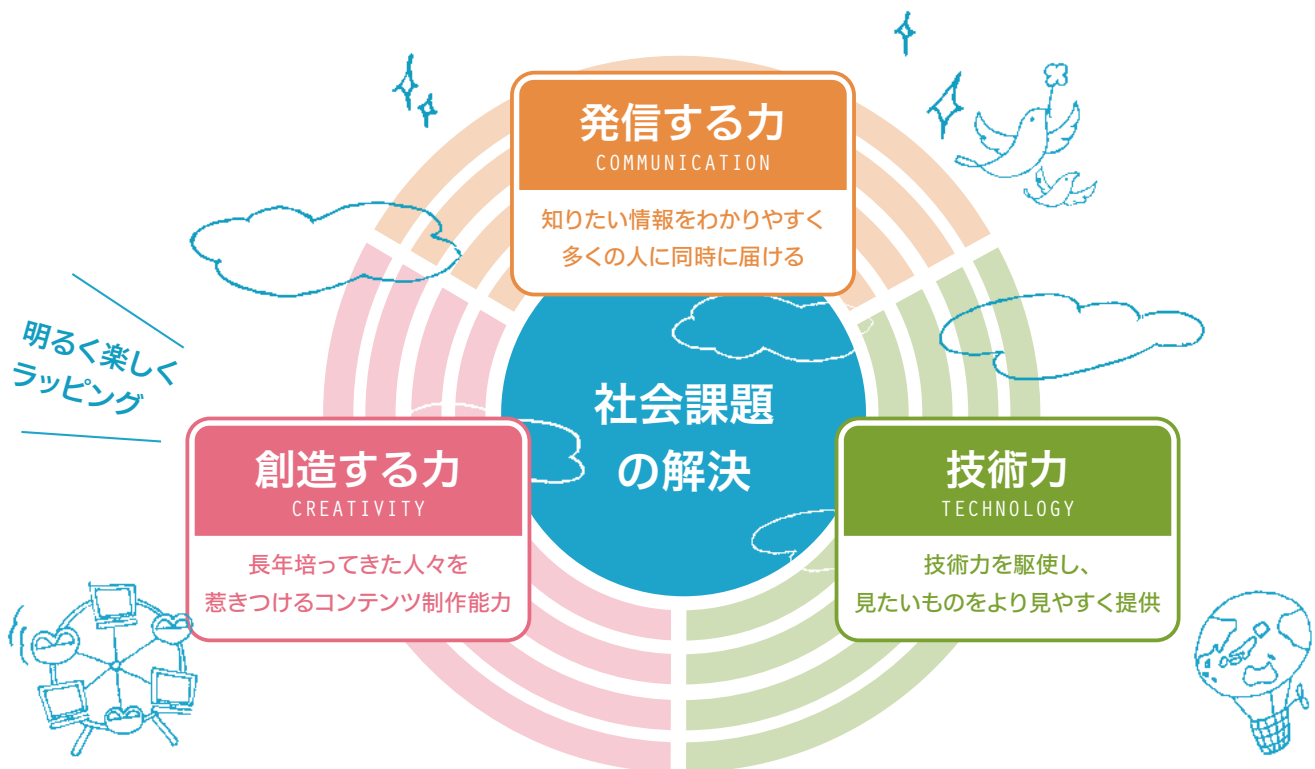
トーター

©石井あゆみ / 小学館
©2016 フジテレビジョン
小学館 東宝 FNS27社

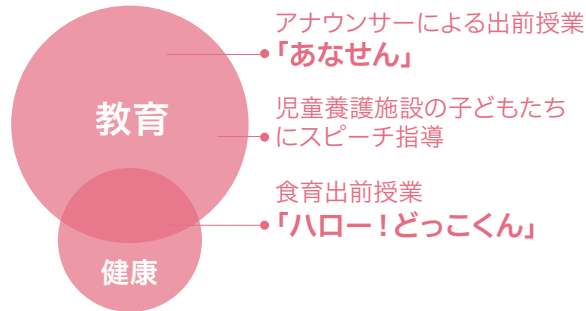
©長谷川町子美術館
Photos: OSA Images
Costumes: Kym Barrett
©2010 Cirque du Soleil
©2015 Fuji Television

テレビを通じて世の中をHAPPYに♪

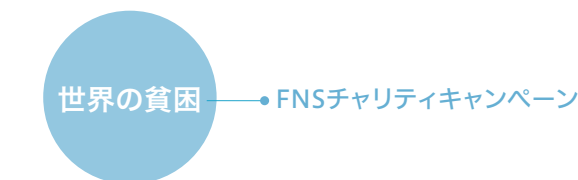
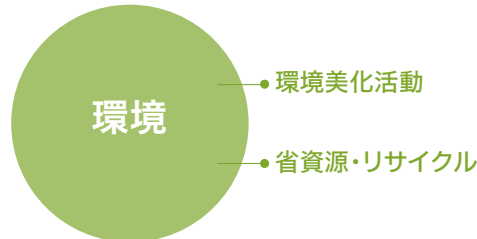
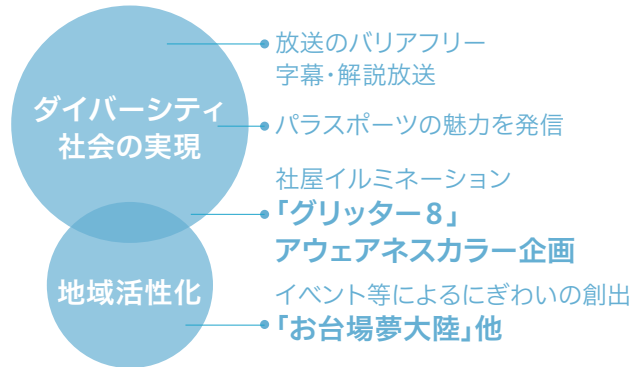
私たちが持っている強みを発揮し、
“フジテレビらしい”取り組みで社会課題の解決をめざしています。



未来を創る若い世代のために



社会のために



CONTENTS

特集1	伝える責任	09
特集2	グリッター8×アウェアネスカラー企画	11

未来を創る若い世代のために

アナウンサーによる出前授業「あなせん」	13
食育出前授業「ハロー!どっこくん」	15
児童養護施設の子どもたちの自立を支援	16
子どもたちに新しい体験を	17
見学案内・仕事体験他	18
次世代のクリエイターの発掘と育成	19
アスリートの育成	20

社会のために

地域社会とともに	21
放送・映画等におけるバリアフリー	23
社員・スタッフに対するバリアフリー教育	24
番組を通じた社会課題の発信	25
高い技術力を通じて	26
視聴者ニーズの多様化への対応	27
コンテンツ制作能力をグローバルに発信	29
FNSチャリティキャンペーン	30

環境のために

地球温暖化防止のための取り組み	31
リサイクル・省資源	32
環境美化活動	33

災害復興支援

「ずっとおうえんプロジェクト」	34
「こども笑顔プロジェクト」	35
「Tattonプロジェクト」	35
BCP対策・放送を継続する責任	36
災害情報を見やすく提供	37
その他の復興に向けた取り組み	38

視聴者とともに

番組審議会・社外モニター制度	39
「こどもフジテレビ批評」	40
視聴者の声を聞く	40

人材育成と職場環境

マネジメント

人権・コーポレートガバナンス・内部統制 コンプライアンス等	43
----------------------------------	----

フジサンケイグループの取り組み

高松宮殿下記念世界文化賞	47
地球環境大賞	48

第三者意見

	49
--	----

戦後70年特別番組を放送

終戦70年ドキュメンタリー

『私たちに戦争を教えてください』

～いま、会っておかなければいけない人がいる
今日、聞いておかなければいけない声がある～

現代は親、子、孫、三世に渡り戦争を知らない時代です。一方で戦争という事実を語り継ぐ人々はいなくなりつつあり、実際に体験した方からお話を聞く機会は、減ってきています。この番組では70年前の日本で起こった戦争というものが、本当はどんなものだったのか、実際に体験した人々に会い、話を聞き、映像とともに世の中に伝えることを使命としています。

戦争を知らない世代の代表として今最も影響力のある5人の若者が、全国の戦争体験者の下を訪ね、その凄まじさを肌身で感じています。8月15日に4時間を超える特別番組として放送しました。



- 小栗旬 「なぜ戦争は始まったのですか？」
- 松坂桃李 「人を殺めたときの事を教えてください」
- 福士蒼汰 「特攻ってなんですか？」
- 有村架純 「少女は沖縄で何を見たのですか？」
- 広瀬すず 「特攻隊員との淡い恋」

2015年8月15日 19:00～23:10放送



情報制作局
成田一樹プロデューサー

「10年後、20年後、その先の世代に戦争体験者の生の声を残したいという思いがありました。戦争を知らない若者5人が、祖父母に話を聞きに行く。そんな身近なテイストを考えました。放送後に亡くなった体験者もいらっしゃいます。この番組が、次代を担う若者たちが戦争を知り、伝えていきつかけにできればと思います。」

視聴者から番組に寄せられたコメント

「私たちの世代を含め、若い世代は「戦争」のを知る機会すら少なくなったように感じます。考える場を設けて頂いたことに感謝します。」 30代男性

「本やネットで調べるより、リアルに感じる事ができました。経験者の話を語り継ぎ、風化させてはいけないと感じました。」 20代男性

「どうやって娘に戦争のことを教えたらいいかずっと考えていました。娘と話し合う機会を作ってくれた番組への感謝を伝えたくて」 40代女性

金曜プレミアム

『池上彰緊急スペシャル！』

「なぜ世界から戦争が
なくなるのか？」



2015年11月にパリで起きた大規模なテロ。世界各地で争いは続いています。人類は平和を望んでいるはずなのに、なぜ、何度も戦争を繰り返すのか？その謎に迫り、今世界で起きている戦争から「日本の平和」を考えるとともに、戦争がなくなる理由を池上彰がわかりやすく解説しました。 2016年2月12日 19:57～22:52放送

視聴者と双方向につながるテレビ

自社批評番組を24年間にわたって放送

『新・週刊フジテレビ批評』



テレビ番組でテレビに関する批評をする民放初の自己批評番組として1992年に放送を開始。番組内で視聴者からのご意見を紹介する他、2015年度は戦後70年、東日本大震災から5年など様々な事件、災害、政治・社会問題に対する放送を検証。「テレビが社会に対してどのような責任を負っているか」という観点で、専門家やテレビ出演者を招き議論しました。



毎週土曜 5:00～6:00放送

緊急報告 熊本地震の対応について

公共性の高いメディアであるテレビ局にとって、震災などの災害報道は、重要な「使命」と認識し、2016年4月14日夜に発生した熊本地震の際も「迅速」かつ「正確」な報道を心がけました。

● 放送とネット配信

地震発生から7分後の4月14日21時33分からFNN報道特番を放送、16日未明の本震でも特番体制を組むなどレギュラーニュース以外でも合計21時間8分の報道特別番組を放送しました。さらに情報番組でも地震関連の情報を継続して伝えました。また、今回の地震では、各局、ネットでの同時配信を行いました。フジテレビは独自のネット報道チャンネル「ホウドクキョク」(詳細は28ページ)で、地上波の放送を同時配信した他、放送では伝えきれない地域の情報を発信する災害伝言板的な役割も果たし、震災発生から65時間34分間、配信を行いました。さらに、その内容をLINE LIVE(約37時間)で配信、You Tube Live(約26時間)にも掲載しヤフーでも視聴可能になるなど、より多くの方々が必要な情報にアクセスできるよう努めました。

その後も刻々と移り変わる現地の情報を各番組で伝えていきます。

● 報道の基本姿勢

震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。取材にあたっては、被災した方の感情に配慮することを常に心がけ、その気持ちを理解し寄り添うことを大前提としています。しかし、熊本地震の報道で、取材に関連し被災者に不快な思いをさせてしまうケースもあり、今一度被災者の心情への配慮を徹底していくとともに、国内全域をカバーするFNN系列28局の相互の連携、協力による取材体制、及び支援体制をより一層強化させていきます。

東日本大震災から5年

『消防隊だけが撮った0311 ～彼らは「命の砦」となった～』

「消防と震災」をテーマとした報道スペシャル番組を放送しました。震災の日、災害時の“命の砦”とも言える消防は、281人ももの死者・行方不明者を出しながらも、



史上初となる全国規模の緊急消防援助隊を動員し、全国から駆け付けた消防隊員が、5,000人以上の命を救いました。番組では消防が撮影した未公開映像の数々を独自に入手。この初公開映像と今だからこそ語れる証言で、空前絶後の大災害に立ち向かい、一人でも多くの命を救おうとした消防の奮闘と葛藤を描きました。

2016年3月4日 21:00～23:22放送

ドキュメンタリー企画 『わ・す・れ・な・い』

これまで14本の特別番組を送り出してきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ、節目となる2016年は津波映像を改めて時系列に検証した『わ・す・れ・な・い5年間



の“検証映像”全記録～192の映像が伝える夜明けまでの15時間』と、家族を失った少年が悲しみの中で大切なものに気付いていく『ザ・ノンフィクション わ・す・れ・な・い 明日に向かって～運命の少年』を放送、悲劇を「わすれない」ことを訴えました。

『5年間の“検証映像”全記録』2016年3月5日 14:05～16:00放送
『ザ・ノンフィクション わ・す・れ・な・い 明日に向かって～運命の少年』
2016年3月6日 14:00～14:55放送

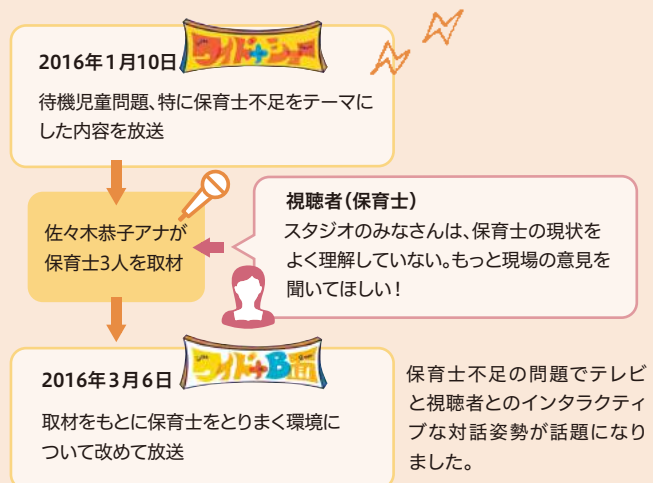
視聴者の“知りたい”に答える

『ワイドナショー』『ワイドナB面』

『ワイドナショー』では、世の中で起きている旬な問題から、あまり話題になっていないが興味深い事象まで幅広く取り上げ、視聴者の「知りたい」に答えています。『ワイドナB面』では、視聴者が取り上げてほしいテーマ等について取材、放送。松本人志さんをはじめとするスタジオゲストが語るコメントが毎回注目されています。



『ワイドナショー』毎週日曜 10:00～10:55放送
『ワイドナB面』毎週日曜 10:55～11:15放送



ダイバーシティ社会の 実現にむけて

放送とも
連動

GLITTER8 × Awareness Color

お台場からダイバーシティを発信！

フジテレビの本社屋全体をライトアップする仕組みを活用し、年間を通じて多様な色によって社会課題への支援の意志を発信しました。
放送やネットニュース、Facebookやブログなどとも連動し、それぞれの課題について知ってもらうきっかけを提供しました。



4月2日 世界自閉症啓発デー(ブルー)



9月21日 国際平和デー(ホワイト)



10月1日 乳がんの予防啓発(ピンクリボン)



12月1日 世界エイズデー(レッドリボン)



2月19日 障害者権利条約が日本で発行された日(イエローリボン)



3月6日 国際女性デーにちなみ妊産婦の健康を願う(ホワイトリボン)

番組、ネットニュース等とも連動し、社会課題について広く発信！

■ 「みんなのニュース」



4月2日 世界自閉症啓発デーのライトアップを「みんなのニュース」で放送

■ 「あしたのニュース」



パープルリボン運動に賛同し「あしたのニュース」でキャスターが紫の衣装を着用

■ ネット報道チャンネル「ホウドウキョク」



「障害者の社会参加を促進するイエローリボン運動」ライトアップをきっかけにそれぞれの社会課題についても伝えました。



「グリッター8」×アウェアネスカラー企画

街全体でライトアップ

フジテレビがある臨海副都心エリアにも参加をよびかけ、東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイトデックス東京ビーチ、レインボーブリッジもライトアップに賛同して頂きました。



10月16日 臓器移植への理解促進(グリーンリボン)



11月1日 児童虐待防止(オレンジリボン)



11月12日 世界中の女性に対する暴力の根絶(パープルリボン)



3月11日 東日本大震災から5年

「グリッター8」とは？

フジテレビ社屋の壁面全体を使って表現するイルミネーション。イベント等にに合わせてオリジナルのショーを展開しています。



「みんなのニュース」「あしたのニュース」「ホウドウキョク」等でそれぞれのライトアップの様子と色に込められた意味などを伝えました。

■ CSR公式ホームページ ダイバーシティ・ブログ



■ フジテレビ英語版Facebook



■ 日本で暮らす外国人向けの ニュースサイト 「JAPAN TODAY」のトップにも 掲載されました。



未来を創る 若い世代のために

For the Generation of our future

子どもたち・若者は未来を担う大切な宝。
若い世代を社会全体で大切に育て、
明るく健康な成長をサポートしています。



“伝えるプロ”が出前授業を通じて
子どもたちのコミュニケーション能力の向上に貢献

「あなせん」プロジェクト



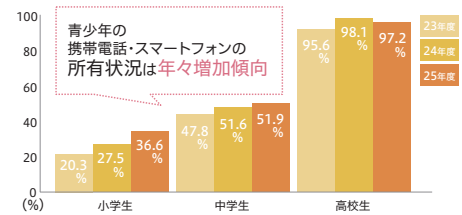
2014年経済産業省
キャリア教育アワード
奨励賞を受賞しました。

対象：小学校3年生～5年生 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]

「あなせん」(アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となって始めた出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、当初は東京・港区/品川区の公立小学校において発声、滑舌の授業を行ってきました。2014年4月からは、キャリア教育の要素も盛り込み、学校のニーズに即したものに発展させるとともに、実施エリアをフジテレビの放送圏内(関東1都6県)に拡大しました。

【青少年の携帯電話・スマートフォンの所有状況】

平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査(内閣府 平成26年2月)より



対象：満10歳から満17歳までの青少年(3,000人)と青少年の同居の保護者
回収結果：青少年1,817人(60.6%) 保護者1,993人(66.4%)
(調査対象期間：平成25年11月～12月)

同調査によると青少年の平日1日あたりの携帯・スマホを通じたインターネット利用時間は平均107.4分、1日2時間以上インターネットを利用している子どもは39.8%と全体の約4割に上ります。

大事なのは、Face to Faceのコミュニケーション
「伝え合う力」は「生きる力」につながると信じて活動を継続

活動目的 近年携帯電話やスマートフォンなどの普及により子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。話し方、聞き方、伝え方の「コツ」を現役のアナウンサーが実体験をもとに教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知る機会にもなっています。
未来を担う子どもたちの“伝え合う力”は、“生きる力”につながると信じて活動を継続しています。

「あなせん」ホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/index.html>

2015年度 小学校での実施校



伝え合うって楽しいね!

- 古河市立古河第一小学校
- 荒川区立赤土小学校
- 北区立王子第五小学校
- 江東区立第五砂町小学校
- 江東区立枝川小学校
- 高崎市立中居小学校
- 加須市立元和小学校
- 白岡市立西小学校
- 品川区立浜川小学校
- 大和市立林間小学校

お礼のお手紙より



「子どもたちのためにすばらしい授業をプレゼントしていただき、ありがとうございました。スピーチの仕方だけでなく、将来への夢と希望までも大きくふくらませて頂きました。」

古河第一小学校5年
担任一同

「私は小さい時から、はずかしがり屋で声も小さかったのですが、あなせんで声を出してから、すこしだけ大きな声を出せるようになりました。」

中居小学校5年生

2015年度の新しい取り組み

1. 警視庁警察学校で特別授業

警視庁警察学校の教官約120人を対象に、笠井信輔アナウンサーが「心に響く伝え方」と題した特別授業を行いました。「ただしゃべる」のではなく「伝えるように伝える」ことの大切さを『とくダネ!』におけるプレゼンテーションと比較しながら説明すると、みな真剣にメモを取りながら聞き入っていました。



2. 夏のイベント「夢大陸」にて 技術チームと初のコラボ!

夏の社屋イベント「お台場夢大陸」にお越し頂いた子どもたちを対象に8月8日と8月28日の2日間、「公開あなせん@お台場夢大陸」として技術チームとコラボした特別授業を行いました。フジテレビに遊びに来てくれた子どもたちとその家族で1階のマルチシアターは満員に!



3. 「あなせん」× うつくしまふくしま未来支援センター “キャリア支援”の一環として 福島の中・高校生に対して特別授業を実施 (詳細は34ページ)



あなせん プロジェクトリーダー 佐々木恭子アナ



子どものコミュニケーション応援のために始まった「あなせん」も、活動の幅が広がってきました。大人向けにも、夢の第一歩を踏み出す高校生にも。伝えるって楽しい!受け取るって楽しい!人と関わり合うことがいかにお互いの人生を豊かにするか。それを体感してもらえる瞬間のために、「あなせん」はあるのだと思っています。

2015年度

17 回 約 1,800 人を対象に実施

2005年からの累計 173 ヶ所約 11,700 人



子どもたちの明るく健康な育ちをサポート

食育出前授業「ハロー!どっこくん」



“エンターテインメント”の力で、子どもたちが楽しめる食育出前授業を全国展開

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん」体操などで構成された楽しい約40分のプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、全国で実施しており、2015年度は愛媛県、福井県、三重県に初めて何うなど活動エリアが広がっています。



東京都新宿区 ほっべるランド神楽坂

2015年度開催実績

- 愛媛県 愛媛大学付属幼稚園
- 愛媛県 道後聖母幼稚園
- 茨城県 伸びる会学園つつみ幼稚園
- 東京都 お台場夢大陸ステージ
- 福井県 福井テレビ本社4F 大ホール
- 愛媛県 久枝幼稚園
- 愛媛県 子ども博Kid'sフェスタ
- 岐阜県 関ヶ原小学校附属幼稚園
- 宮城県 せいがん幼稚園
- 宮城県 七郷学園 蒲町幼稚園
- 東京都 成田保育園
- 岩手県 湯口大谷幼稚園
- 岩手県 大谷幼稚園
- 茨城県 小貝保育園
- 茨城県 常総市立豊田幼稚園
- 東京都 ほっべるランド神楽坂
- 三重県 さくら保育園
- 三重県 松阪仏教愛護園

2015年度は

18ヶ所に伺い
約2,250人の

子どもたちと出会いました!



宮城県多賀城市せいがん幼稚園

保護者からの お礼のお手紙より

「久しぶりに楽しく体を動かしました。」

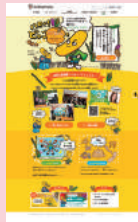
「食えることや体を動かすことが、元気な毎日を過ごすために大切であることを楽しく学べる機会となりました。」

子どもたちからの 手作りのプレゼント♪



オリジナルHPも充実!

「どっこくん体操」や「快ウンおみくじ」がスマホ・タブレットからでも楽しめます。出前授業のお申し込みもこちらからどうぞ!



「ハロー!どっこくん」ホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

2010年～2016年3月までの合計

121ヶ所 約13,150人を対象に実施



“伝える力”で児童養護施設の子どもたちの夢を応援

スピーチ能力向上をめざしアナウンサーが直接指導

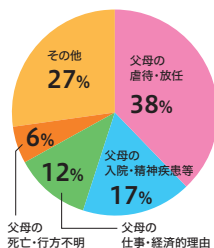
NPO法人ブリッジフォースマイルと協働した活動

児童養護施設退所後、夢の実現のため進学をめざす子どもたちに奨学金をプレゼントするスピーチコンテスト「カナエール」(企画・運営:NPO法人ブリッジフォースマイル)の活動を2012年からサポートしています。この「カナエール」のプログラムは、ただ奨学金をあげるのではなく、スピーチコンテスト出場という過程で、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させ、ボランティアの方たちなど様々な大人との交流の場を持たせる仕組みになっています。この活動の中で、フジテレビアナウンサーがスピーチ指導を2012年から行っています。2015年は、16人に対し、5月下旬から指導をはじめ、6月20日の東京大会／6月28日の横浜大会を無事終えました。



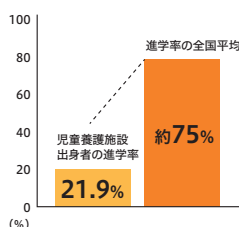
インタビューを通じて話を引き出す小穴アナ(中央)

児童養護施設の入所理由



児童養護施設出身者の退所後の進学率と全国平均の比較

(ブリッジフォースマイル調べ)



スピーチの構成をチェックする佐々木アナ(左)



6月20日の東京大会



カナエール卒業パーティ! さあ、夢へ向かって羽ばたけ!



6月28日の横浜大会

DATA

児童養護施設は、全国に約600施設あり、2~18歳の子どもたち2万8,183人が暮らしています。(平成25年2月現在)親の死や行方不明による入所は1割ほどで、父母からの虐待が4割弱、入院・精神疾患、経済的な理由も増えています。高校を卒業した児童養護施設の子どもたちの進学率は、21.9%と全国平均約75%の3分1以下。就職した子どもの約4割が3年3ヶ月以内に離職しているという現実があります。

Book for Smile

不用になった書籍などを児童養護施設の子どもたちの支援にあてる取り組み「ブック・フォー・スマイル」に協力しています。2015年度は1,603冊を寄付し100,404円が支援にまわりました。

※単行本15冊で、進学を希望する若者1人に1時間分の勉強時間をプレゼントできます。(時給750円換算)



子どもたちに新しい体験を

《アンケートより》

保護者の感想

「今後の子どもの可能性が広がったように思います。」
「人前で話す機会を頂けて自信がついたように思います。」

お子さんの感想

「英語の勉強が楽しくなりました。」
「日本語はいつも話しているのに今日はすごく難しく感じました。」

夏のイベントで「こども場内アナウンス体験」

「お台場夢大陸」で「こども場内アナウンス体験」を実施しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向け、未来を担う子どもたちに国際感覚とボランティア精神を身に付けてもらおうと2014年から始まった企画で、子どもたちが日本語と英語でイベント会場に向け「場内アナウンス」を行いました。

小学生5回、中学生2回、計7回実施

70人の定員に対し810人もの方々からご応募を頂きました！



ベテランアナウンサーによる日本語のアナウンス講習と読み方の指導を受けた後は、ネイティブスピーカーのネルソン・バビンコイさんによる英語アナウンス講習。はじめは不安そうだった子どもたちも、めきめきと上達！講習終了後は『みんなのニュース』特設スタジオ「アナウンサーなりきりスタジオ」でいざ本番！子どもたちによる元気な日本語と英語による場内アナウンスが「お台場夢大陸」の会場に響きわたりました。

そらぶち キッズキャンプとは？

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。

小児がんや心臓病などの難病とたたかう子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごせるようにとつくられました。



難病の子どもたちのための自然体験施設 「そらぶちキッズキャンプ」を支援

フジテレビでは「そらぶちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント開催などで支援を行っています。また「そらぶちキッズキャンプ」は「東京マラソン」チャリティランの寄付先にもなっており、フジテレビが中継を担当する年は放送を通じて活動を紹介するとともに、沿道で応援する過去のキャンプ参加者をサポートしています。2016年2月には、関東と北海道から4家族が参加する冬のキャンプで奥寺健アナウンサーと北海道文化放送の柴田平美アナウンサーによる朗読会を開催しました。



“テレビのお仕事”を体験する場を提供

社内見学ツアー

「のぞいてみよう!フジテレビ」



「テレビ局ってどんなところ?」そんな好奇心に応えるため、小学5年生~大学生までのグループ(15人まで)を対象に社内見学案内ツアーを行っています。番組のスタジオや、美術セットを見たり、放送が送り出されるまでをわかりやすく説明。キャリア教育の一環としてはもちろん、テレビの魅力を知ってもらい、テレビファンを増やす目的もあります。

「のぞいて、見て、学べる」75分のコース(無料)
平日13:30~と15:00~の2回開催
[2015年度見学者 総数3,399人]



→詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/kengaku/index.html>

職業体験

「フジテレビのお仕事!」

「フジテレビのお仕事!」は『めざましテレビ』の専用スタジオでミニ番組を制作することを通じてメディアとは何か、チームワークの大切さを学ぶ職業体験プログラムです。2015年度は中高生向けのプログラムに加え、大学生向けのキャリアデザイン、メディアリテラシープログラムとして大きく展開しました。明治大学や法政大学などの講座連携も行っています。

[2015年度末まで延べ559校 体験者数 61,351人]



→詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/oshigoto/meza/index.html>

小学校で美術による出前授業を開催!

10月23日、千葉市美浜区の真砂西小学校で、「テレビ美術の仕事」と題して美術制作局の社員とプロのメイクによる出前授業を行いました。テレビ美術とはどんな仕事なのか、メイクによって七変化する様子や老けメイクなどを写真で紹介したあとに、ハロウィンなどにも活用できる簡単特殊メイクで「傷や火傷」の実演をしました。



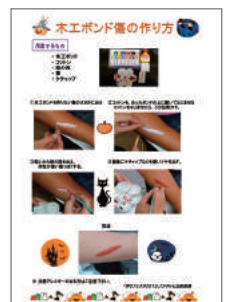
「美術EXPO」

あまり知られていないテレビ美術の制作ノウハウを広く公開することで、制作能力の向上や新たなビジネスチャンスの発掘を目指す目的で開催。2回目となる今回は制作者の他に将来のテレビ美術を担う美術系の大学生や専門学校生約90人も来場。最新の技術を駆使した美術装飾に興味深く見学していました。

[10月21日・22日 総来場者915人]



傷メイクの作り方 “レシビ”を配布



バンドやケチャップで作るリアルな火傷に歓声が!



次世代のクリエイターの発掘と育成

若い世代の放送文化への興味と理解を広げ、次世代のクリエイターを育てることも私たちの使命と考え、以下のような取り組みを行っています。一般対象、大学生対象、高校生対象と幅が広がっています。

1989～

一般

第27回ヤングシナリオ大賞

ヤングシナリオ大賞は、次世代のシナリオライターを発掘・育成することを目的とした賞です。第27回は2061編の応募があり、4回にわたる選考を経て12月4日に大賞1名・佳作3名を発表。大賞作品『超限定能力』（受賞者・青塚美穂）が映像化され、12月20日に地上波（関東ローカル）にて放送されました。WEBサイトからの応募も定着し、更なる才能の発掘に力を注ぎます。



2009～

大学生

映画製作を志す学生たちに発表の場を 「Student Films 7 in ODAIBA」



年1回、映画を専攻している学生たちに「作品発表の場」と第一線で活躍する映画製作者との「交流の場」を設けています。6回目となる今回は2016年2月21日、日本映画大学、多摩美術大学、東京工芸大学、日本大学、武蔵野美術大学、早稲田大学が参加し、6本の映画が上映されました。SF、ラブストーリー、社会派、無声映画まで個性豊かな作品が揃いました。作品の学生監督・スタッフは、映画評論家の佐藤忠男さん、フジテレビ製作の映画に関わった監督とともに、トークセッションを展開。編集ポイントや撮影方法、脚本内容、キャスティング等、質問や意見が飛び交いました。チラシの制作も学生が行い、学生の参加度が高まっている「Student Films 7 in ODAIBA」。この映画祭から、未来の監督が誕生することを期待しています。



〈トークセッションに参加してくれた監督〉
鈴木雅之監督（映画『HERO』など）
佐藤嗣麻子監督（映画『アンフェアthe end』など）
佐藤祐市監督（映画『脳内ポイズンベリー』など）
松山博昭監督（映画『信長協奏曲』など）

2014～

高校生

ドラマ甲子園

高校生のための演出家発掘プロジェクト。

大賞作品は、執筆した高校生本人の演出で、テレビドラマ化されるという夢のあるプロジェクトです。第2回ドラマ甲子園大賞受賞作品『なんでやねん受験生』は第1回で佳作を受賞した学生のリベンジでの大賞受賞。今年も監督の地元での撮影が行われ「フジテレビTWOドラマ・アニメ」で放送されました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。

ドラマ
甲子園



アスリートの育成



高校バレーを45年間 継続サポート 春の高校バレー

春の高校バレー

「全国高等学校バレーボール選手権大会」として行われるこの大会を、日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟とともに主催し、全試合をテレビ中継し全国放送しました。今回はCS放送フジテレビONE・TWO・NEXTで1回戦から準決勝までの男女全96試合を生中継。さらに、今年はインターネットチャンネル「スカパー！オンデマンド」でも、準決勝までの全試合をLIVE配信し、決勝も試合当日に配信を行いました。「春の高校バレー」をより多くの視聴者にお届けすることで、バレーボールの普及・発展、及び次世代アスリートたちの育成に貢献しました。



バボキャラ

バレーボールの元全日本選手が、全国の高校チームに赴き、春高バレー出場を目指した「コチキャラ」。このノウハウを生かして誕生したのが“バレーボールコーチングキャラバン”、略して「バボキャラ」です。拠点となる高校に派遣された元全日本選手の指導を受けた高校生が、今度はその教を基に、地域の小・中学生にバレーを指導するという新しい形のバレーボール育成システムです。2015年は、バレーボールの楽しさ、教えることの難しさ、そして地域の絆の深さを感じてもらえる活動として、東日本大震災の被災3県や名古屋、富山などで実施しました。



スワローズキッズアカデミー

憧れのプロ野球選手になることを夢見る少年たちを放送を通じてサポートしました。東京ヤクルトスワローズの選手たちが講師役を務め、野球技術のワンポイントレッスンやトレーニング方法、さらには食生活も指導するなど、野球少年たちの健やかな成長に貢献しました。



毎週日曜5:40~5:45放送

日本リトルリーグ野球協会への 協賛および大会後援

産経新聞、サンケイスポーツとともにリトルリーグ野球を応援しています。リトルリーグの理念に賛同し、40年以上に渡り協会運営のサポートと、公式大会(全国選手権大会や選抜大会等)の支援を続けています。

日本サッカー協会 「こころのプロジェクト」

サッカー日本代表選手や現役のJリーガー、なでしこリーグの選手や他競技のトップアスリートたちが「夢先生」として課外授業を行い、子どもたちの心身の健全な成長に寄与することを目指す「JFA「こころのプロジェクト」活動に協賛しています。



社会のために

Contribution to Society

人と人をつなぐ“メディア”として、地域社会の発展や、放送を通じたコミュニケーション、人を笑顔にする取り組みなどで、あらゆる人がいきいきと暮らせる社会の実現をめざします。



地域社会とともに

PICK-UP!



場内には、廃棄物のリサイクル率向上のため、徹底したゴミの分別を推進。5分別を3ヶ国語で表記しました。



海外からのお客さま向けに英語版パンフレットとサイトも作成!

お台場エリアは、家族連れや外国人旅行者など多くの観光客でにぎわう人気スポットです。このエリアのランドマーク的な存在であるフジテレビは、地域の継続的な発展のために、イベント等を通じた集客など、魅力あふれるまちづくりに貢献しています。

夏の大型イベント「お台場夢大陸」 **お台場夢大陸** ドリームメガナツマツリ Dream Mega Summer MATSURI 2015

「お台場夢大陸」を7月18日から8月31日までの45日間にわたってフジテレビ本社屋周辺で開催。番組と連動した参加型・体験型のアトラクション、ライブなどで皆さんに楽しんで頂きました。お台場エリアの魅力向上と、フジテレビファンを増やすため年々イベント内容を進化させており、今年は初の本格的な「夜営業」を行うなど、日本の「夏祭り」をフジテレビ風にアレンジした『ドリームメガナツマツリ』という新しいコンセプトで実施しました。[総エリア来場者数 466万人]



- 熱中症対策として今年もイケメンミストマン”が活躍!
熱中症を防ぐために毎年“ミストマン”が活躍しています。ミスト状の水を振りまき来場者に癒しを提供。オーディションで選ばれたイケメンミストマンと男性アナウンサーが、暑さを和らげるため、冷たいミストと爽やかな笑顔でおもてなしをしました。

- 子どもたちによる場内アナウンスのボランティア体験も!
(詳細は17ページ)

世界最高峰の感動をお台場で！

「ダイハツトーテム」

世界中で400万人以上を魅了してきたシルク・ドゥ・ソレイユの日本公演最新作を、2016年2月からお台場で開催。人類の進化を描いた壮大な物語と、アーティストたちが繰り広げる究極のアクロバットに、連日大喝采が送られています。東京の後は、大阪、名古屋、福岡、仙台と全国を巡回。フジテレビは、国内そして海外からも、「最新」で「話題」の「超一流のエンターテインメント」を提供していきます。

Photos: OSA Images Costumes: Kym Barrett
© 2010 Cirque du Soleil © 2015 Fuji Television



お台場エリアの情報を海外にも発信！

英語・中国語のフジテレビ公式HPやfacebook・Youtubeを活用し、企業情報・番組・映画・イベント・海外コンベンション・オリジナル動画などの最新情報を発信しています。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、東京ベイエリアの情報発信を行うとともに、お台場を訪れる外国人の利便性の向上に努めています。

世界屈指のDJがお台場に集結！

「ULTRA JAPAN 2015」

2014年日本中のEDM(エレクトロニック・ダンス・ミュージック)ファンを熱狂させた「ULTRA JAPAN」をお台場で開催(2015年9月17日～19日)。3日間に規模を拡大し、来場者も9万人と前回の倍以上に増え、お台場エリアは熱気に包まれました。



お台場が仮装パーティー会場に！

T-SPOOK～TOKYO HALLOWEEN PARTY～

「お台場を新たなハロウィンの聖地に！」と『めざましテレビ』が2014年からプロデュースしているハロウィンイベントに、子どもから大人まで幅広い層の方々が思い思いの仮装をして参加され、2日間で9万人の方々が来場しました。今後も新たなジャパニーズハロウィン文化の発信を担っていきます。

[2015年10月24日～25日開催]



伝説のゲームから最新VRまで遊べる

「GAME ON～ゲームってなんでおもしろい?～」

1962年から現在までのコンピューターゲームの歴史と文化を「見て」「触って」「実際に遊べる」展覧会に、かつてゲームに夢中になっていたお父さんたちから、今まさにゲームに夢中な学生や親子、更には外国人の方々などで大いに賑わいました。

[2016年3月2日～5月30日 日本科学未来館にて開催]



「第14回ドリーム夜さ来い祭り」をサポート

お台場エリアなどで毎年開催されている「ドリーム夜さ来い祭り」。首都圏を中心に約80チーム6,000人が参加、お台場は踊り子たちや観光客等で埋め尽くされました。共催するフジテレビは、31日の前夜祭で音楽ステージを企画、演出。初めて東京文化会館とのコラボライブを成功させるなど、地域活性化に貢献しました。

[10月30日～11月1日 主催:一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団]



放送・映画等におけるバリアフリー

字幕放送

7時～24時のほぼすべての収録番組[生放送以外の番組]に字幕を付与

字幕放送とは、主に聴覚障がい者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々にテレビ番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を[文字]にして画面に表示する放送のことです。ドラマのセリフやバラエティ番組のトーク部分はもちろんのこと、ドアを叩く音や携帯電話が鳴る音などの効果音も字幕で表示し、番組内容を十分ご理解頂けるようにしています。



字幕放送



生字幕をつけている様子

生放送番組については、ニュース、情報番組を中心に[生字幕 = ほぼリアルタイムで字幕を付けること]の付与を進め、さらにこれまで難易度が高かったため付与しなかった生放送のバラエティや、長時間に及ぶスポーツ中継などについても積極的に字幕を付けています。

⇒詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.fujitv.co.jp/company/action/jimaku.html>

解説放送

「解説放送」は主に目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行うものです。セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。現在、金曜や土曜の単発ドラマや邦画、『ごきげんよう』(2016年3月末にて放送終了)、『ワンピース』、『はやく起きた朝は…』、『ちびまる子ちゃん』、『サザエさん』などの番組に解説放送を継続的に付与しており、今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう促進に努めていきます。

⇒詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujitv.co.jp/company/action/kaisetsu.html>

手話放送

「テレビ寺子屋」(毎週日曜 5:10～5:40放送)にて手話放送を行っています。

映画作品におけるバリアフリー

フジテレビが製作している映画には、聴覚障がい者のお客様にもご鑑賞頂けるよう、日本語字幕を付けて上映し、後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付けています。また、視覚障がい者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増えてきています。

● 2015年度に音声ガイド付き上映を行った作品



「海街Diary」
©2015 吉田秋生・小学館/フジテレビジョン
小学館 東宝 ギャガ

映像コンテンツにおける字幕

ドラマをDVD化する際には、制作時に聴覚障がい者向けに字幕を付けています。

CM字幕放送対応

字幕付きCMのトライアル期間が終了し、次の段階に移行すべく複数社が提供する番組での放送に向けて作業を進めています。

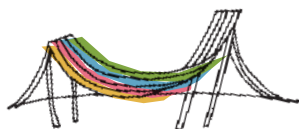


「アンフェア the end」
©2015 関西テレビ放送 フジテレビジョン
ジャパン・ミュージックエンターテイメント
東宝 共同テレビジョン

「音声ガイド」とは?



映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障がい者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが音声ガイドの役割です。



社員・スタッフに対するバリアフリー教育 まずは知ることが第一歩、考えるきっかけに



ユニバーサルマナー検定

「ユニバーサルマナー検定3級」講習を社内実施



フジテレビ社員27人を含む、フジ・メディア・ホールディングス各社(計18社)の62人が、1月19日、「ユニバーサルマナー検定」3級の講習を受講しました。

2016年4月1日に障害者差別解消法が施行、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、高齢者や障がい者など多様な人々に対する正しい理解と接し方を身に付け、ダイバーシティ社会の実現に貢献することを目指します。



(株)ミライロの垣内俊哉社長
「障がいは人にあるのではなく環境にある」

「ユニバーサルマナー」とは?



高齢者や障がい者への適切な対応のこと。約3,300万人の高齢者、約800万人の障がい者が暮らす日本では、自分と違う誰かのことを思いやり、理解することはもはや一人一人に求められていることです。

ドーナツセミナー

社会課題について知る機会を提供



日本財団 青柳光昌さん



タカラトミー 吉田沙也加さん



Love & sense 高津玉枝さん

様々な社会課題について学ぶ勉強会を社内で開催しました。

- 障がい者雇用の現状
- 日本における子どもの貧困問題
- フェアトレードについて ■共遊玩具とは? 等

障がい者の就労支援

(株)テミルのお菓子を販売



障がいのある方が働く就労支援施設とパティシエ・絵本作家がコラボして作られたテミルプロジェクトのお菓子を社内で定期的に販売しています。



番組を通じた社会課題の発信

パラスポーツの魅力を多面的に発信！

PARA☆DO!

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、障がい者スポーツへの注目が高まっています。スポーツは年齢、性別、障がいの有無に関係なくみんなで楽しみ感動することができます。『PARA☆DO!』はパラスポーツを通じて、パラリンピックのムーブメントを起こし、一人一人の心のバリアフリー化とともに、誰もが互いに認め合える「共生社会の実現・創造」を目指すプロジェクトです。



パラスポーツ専門番組を放送

『PARA☆DO! ～その先の自分(ヒーロー)へ～』

毎週水曜 22:54～23:00放送 (関東ローカル)

さまざまなパラスポーツ競技に取り組むアスリートの明るく前向きな姿を毎週紹介

『スポーツLIFE HERO'S』

毎週土曜 24:35～25:15放送

毎週日曜 23:15～24:30放送

パラアスリートの情報を積極的に発信

障がい者スポーツのセミナーも継続的に開催していきます。

NONFIX

『“変わり者”と呼ばれて～“見えない”障害と生きる～』が 自閉症アワードを受賞

NONFIX

周囲の理解なくしては生きられないアスペルガー症候群の人たちとその家族や仲間たちとの生活を密着取材し、放送しました。(2015年2月5日 2:20～3:20放送)

これに対し、東京都自閉症協会から、「見た目には分かりにくい自閉症スペクトラムの成人の日常の人間関係を丹念に追い、本人の苦悩とともに、周囲の人の深い理解で生活が成立しているという現実をつぶさに伝え自閉症の啓発に貢献した」として「自閉症アワード」の表彰を受けました。[5月17日]



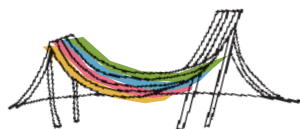
左:内藤瞬ディレクター
中:榎木信人プロデューサー
右:東京都自閉症協会 今井忠理理事長

ドラマ『残念な夫。』と東京都がタイアップ

ドラマ『残念な夫。』(2015年1月～3月放送)が、東京都の子育て支援とタイアップした広報展開を行いました。子どもを産み育てたいと望む人たちが安心して子育てできる環境作りを進めるとともに、出産を経た夫婦が向き合う問題を広く知ってもらう機会につながることを目的としています。



共同宣伝ポスターは、保健所や都立病院など都内施設約2,000ヶ所に掲示



高い技術力で、いままで見たことのない驚きを!



『タイムトリップ軍艦島』民放初の4K配信

世界文化遺産に登録された長崎市の軍艦島のドキュメンタリー番組『タイムトリップ軍艦島』を民放では初となる4K動画で、「FOD」(26ページ)で配信。今と昔の再現CGを4Kで表現したタイムトリップ軍艦島は「4K徳島映画祭2015in神山」の大賞、先進映像協会「ルミエール・ジャパン・アワード 2015」の4K部門グランプリを受賞し、その技術の高さと作品の価値が認められました。



更に地上波放送番組『4Kランドスケープ』にて、HD放送と同時配信の4K映像とのシームレスな切替視聴をテレビで実現しました。これは、ハイブリッドキャスト上で4K動画を配信する技術を開発した世界初の事例です。

タイムトリップビューとは?



CG技術を応用し、日本橋や皇居周辺の門などの施設をスマートグラスやスマホなどで今と昔の様子を重ね合わせて見ることができ、歴史探訪ツアーに使われたり、史学的な資料としても活用されています。

新周波数受信アンテナの開発

★平成27年日本民間放送連盟賞 技術部門 最優秀賞を受賞★

放送局がこれまで番組制作に使用していた電波の周波数帯は、2018年度末までに700MHz帯から新周波数帯(1.2GHz帯及び2.3GHz帯など)へ移行することが決まっています。これに伴い、フジテレビは新周波数帯に対応した受信アンテナの開発を2013年1月より始めました。2015年2月、このアンテナを用いて日本で初めての新周波数帯による「東京マラソン2015」の番組制作に成功し、その後、ゴルフ中継等でも活用しています。



周波数移行の促進と周波数の有効利用に大きく貢献したことが高く評価され、第41回放送文化基金賞 個人グループ部門 放送技術、平成27年日本民間放送連盟賞 技術部門 最優秀賞を受賞しました。

メディアトリガー plusとは?



VRで「月9」の世界を疑似体験 バーチャルリアリティ

360度の映像と音によるバーチャル・リアリティを体験できる最新ウェアブルコンピュータ「Gear VR」を頭部に装着することで月9ドラマ『恋仲』の世界に瞬時に入れるスペシャル企画を「お台場夢大陸」で実施しました。



放送技術を生かしたアプリ 「メディアトリガーplus」

フジテレビと株式会社フジミックが共同開発したスマートフォンやタブレット端末向けアプリ「メディアトリガーplus」が、東京都のインフルエンザ予防のための手洗いうがい啓発のポータルとして採用されました。

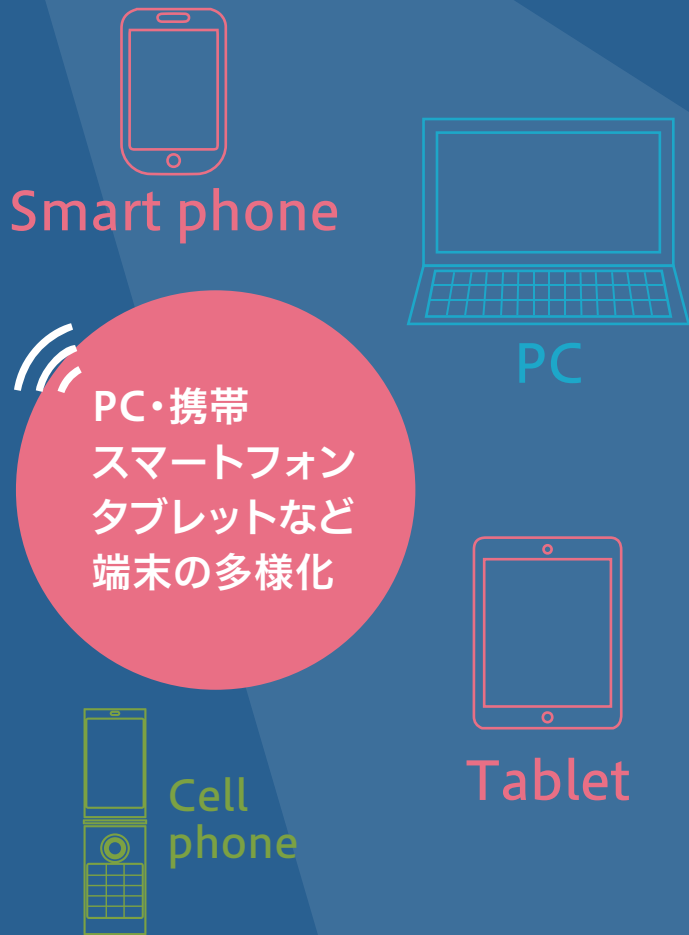


映像、音声認識を応用して、放送番組と連動したり、イベントのポスターや新聞雑誌などにかざすと、見たい情報に簡単にアクセスできるアプリ。



視聴者ニーズの多様化 にともない、 様々なサービスを提供

Total Contents Factoryとして
マルチな視聴環境へ対応



いつでも見たい時に便利に番組を楽しむために！

FOD 「FOD」 (フジテレビオンデマンド)

FOD (フジテレビオンデマンド)は、フジテレビで放送したドラマ・バラエティ番組を中心に、インターネットで配信するサービスです。放送した番組はもちろんのこと、映画、アニメなどフジテレビの作品にこだわらずラインナップを拡充。更に動画のみならず、電子コミックや雑誌などジャンルも拡大したユーザー本位の総合エンターテインメントプラットフォームを目指しています。

<http://fod.fujitv.co.jp>



見逃した番組をキャッチアップ視聴するサービスも！



ドラマやバラエティ番組を放送終了後から最大7日間無料でネット配信するサービス。パソコンやスマホで手軽に視聴することができ、動画視聴形態の多様化に伴うサービス向上と、番組の視聴機会を拡大し、リアルタイム視聴につなげていくことを目的としています。

<http://fod.fujitv.co.jp/s/plus7/>



2015年10月より、在京民放5社共同で、テレビ番組を広告付で無料配信するサービス[TVer(ティーバー)]がスタート。



民放初！ 日本上陸の NETFLIX にオリジナルコンテンツを提供

世界190ヶ国・地域、会員数7,500万人(2016年2月時点)という世界最大の動画配信ネットワークNetflix(ネットフリックス)に、連続ドラマ『アンダーウェア』、リアリティショー『テラスハウス』2つのオリジナルコンテンツを提供。2015年9月のサービス開始当初から配信し、2016年2月からは、FOD制作のオリジナル連続ドラマ『グッドモーニング・コール』をFODとNetflixで同時配信しています。

サービスの变化

1959 フジテレビ開局

1997 本社が台場に移転・上場

1998 CSデジタル放送「フジテレビ721」開始

1999 CSデジタル放送「フジテレビ739」開始

2000 BSデジタル放送「BSフジ」開始

2003 地上デジタル放送開始

2009
フジテレビ開局
50周年

FOD

2005 「フジテレビオンデマンド」動画配信スタート

2014 「フジテレビNEXT smart」スタート

+7
プラスセブン

1月～

ホウドウキョク

4月～

フジテレビ
TVer

10月～

2015 「+7」「ホウドウキョク」「TVer」サービス開始
「Netflix」にコンテンツ提供

2016 「フジテレビONE smart TWO smart」
サービス開始

フジテレビ
ONE TWO NEXT

3月～



インターネット報道チャンネル 「ホウドウキョク」

PC、スマホ、タブレットに対応し放送・配信を行なうニュース専門局。2015年4月に開局し、フジテレビ報道局が総力をあげてオリジナルの内容を提供しています。茨城・常総市の水害や安保法案の採決、パリの同時多発テロでは、特別番組として最新情報を生中継で流すなど、海外在住の方も無料で見られる日本のニュースチャンネルです。

<http://www.houdoukyoku.jp/>

みんなのニュース

夕方のニュースで視聴者のつぶやきを生で紹介『みんなのニュース』では、「ホウドウキョク」とも連携してネット世界での話題やトレンドをお伝えする“ネットNAVI”コーナーをスタート。LINEやTwitterなどSNSも駆使して、2015年10月からは民放ニュース番組としては初めて、その時間にお伝えしているニュースに対する視聴者の“つぶやき”を募集。視聴者のご意見を画面でリアルタイムで紹介しています。



どこでも視聴できるネットチャンネル フジテレビONEsmart フジテレビTWOsmartが開局！

CS放送の有料チャンネル・フジテレビONE TWO NEXTを、PC、スマホやタブレットなどで視聴できるサービス。2014年にCSフジテレビNEXTをストリーミング有料配信するサービス「フジテレビNEXT smart」がスタートしたのにつき、2016年3月にはフジテレビONE TWOも同様のサービスを開始。インターネット環境があればいつでもどこでも放送を楽しめるようになりました。

主なコンテンツ

フジテレビONEsmart

『SWALLOWS BASEBALL LIVE 2016』ホームゲームを全戦生配信、ゴルフ、パレーボールなどのスポーツ中継、競馬・麻雀などのオリジナル番組

フジテレビTWOsmart

『LIONS BASEBALL LIVE 2016』ホームゲームを全戦生配信他にも名作・オリジナルドラマ、『ワンピース』などのアニメ番組

<http://otn.fujitv.co.jp/otnsmart/>

コンテンツ制作能力をグローバルに発信

フジテレビのコンテンツが、世界の視聴者に感動と笑顔を届けます！

海外事業者との共同制作

湖南衛視国際局
ビジネススーパー
バイザー
周璇さんより



「『全員加速中』の成功はフジテレビの全面協力無しではあり得ませんでした。お陰様で視聴率1位も獲得出来ました。シーズン2も宜しくお願いします！」

フジテレビは、アジア各国を中心に、人気の高いドラマやバラエティ番組のフォーマット（現地語版のリメイク権）を販売してきました。2015年度は、中国の最人気テレビ局・湖南衛視と『逃走中』の中国語版『全員加速中』を共同制作・放送し、高視聴率を獲得。子どもから大人にまで人気を博し、早速シーズン2の制作も決定。既に2016年の4月より放送が始まっています。また、中国では同じく最有力テレビ局の一つである上海メディアグループ傘下のSMGピクチャーズと向こう3年間で5本のドラマを共同制作することで合意し、提携を発表。中国の視聴者にフジテレビ発のドラマを継続的に届けます。その他、インドネシアの制作会社とのドラマの共同制作、アルゼンチン最大のテレビ局とのバラエティ番組の共同制作等、世界の視聴者に向けた取り組みを続けています。



『逃走中』の中国語版『全員加速中』

事業開発部 後藤 剛 プロデューサー（写真中央）



「文化も商慣習も全く違う中、最初は戸惑いも多かったですが良いコンテンツを作りたいという思いは万国共通。番組制作を通じて国境を超えた信頼関係を築けたと思います。」



SMGピクチャーズ陳思劼社長（右）と



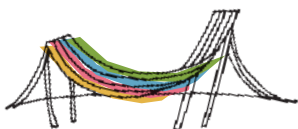
SMGピクチャーズと
共同制作第一弾 月9ドラマ「デート」

海外配信会社との提携

フジテレビの番組を世界の視聴者に届ける方法として、従来のテレビ局を通じて放送してもらうことに加え、近年急速に発展しているインターネット経由の映像配信にも取り組んでいます。2015年度は、新たに香港の配信事業者・PCCWと大型の契約を締結。日本での放送からわずか数日遅れで配信される最新作から、過去の名作まで、数多くのタイトルが同社のプラットフォームを通じて東南アジアの視聴者に届けられるようになりました。

海外で日本語放送

NY・LA・ハワイなどの北米や欧州の在留邦人や日系人に日本の国内情報を提供することを目的としてフジテレビの番組を現地で放送する「日本語放送」を、30年以上続けています。



世界の子どもたちの貧困解決にむけて

FNSチャリティキャンペーン



FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに行っているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社およびBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上におよぶ活動の募金総額は約41億5,000万円に達しており、アジア・アフリカや世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

● 2015年度の支援国 マダガスカル共和国

第42回となる2015年度は、マダガスカル共和国を支援しました。パオバブやアイアイなどで知られ「自然の楽園」というイメージのマダガスカルですが、実は世界の最貧国の1つです。91%の世帯が1日2米ドル以下で生活しています。子どもたちは安全な水を使えない、あるいは予防接種を受けられないなどの厳しい環境で暮らしており、1年で4万人を超える5歳未満児が死亡しています。こうした状況の子どもたちを支援するため、『とくダネ!』の山中アナウンサーと取材班は16日間にわたり現地を取材。5月27日と28日『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。また全国フジテレビ系列局とともに様々な募金活動も行いました。



主な活動内容

番組による募金活動

■「マダガスカル“最後の楽園”子どもたちの本当の姿」
フジテレビ系列局の地上波とCS・フジテレビONE/
TWO、BSフジで放送

■「ホウドウキョク」ニュースのキモ! Afternoon
山中アナ出演のもと、マダガスカル取材映像を流し、支援を募りました。



イベントによる募金活動

- 山中アナによる現地取材報告講演会
- 「ふるさと祭り東京2016」会場において全国の地酒ブースを設置
- 系列各局のイベント
- 「お台場夢大陸」でのフリーマーケットによる募金
- ディノス・セシールが在庫衣料品・雑貨をチャリティで販売し全額を寄付
- 「くるくる募金箱」を事業局の協力で「トータル」会場内に設置

フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画『HERO』の収益から総額600万円を寄付しました。



社内交流イベントによる募金活動

8月と3月にチャリティフェスタ「ちよい呑み」を開催し、計73万6,672円を寄付しました。



2015年度の募金総額

5,458万 7,213円 (最終寄付金額 4,973万9,917円)

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。



環境のために

For Environment

全社をあげた省エネ、省資源の取り組み、花や緑あふれる美しいまちづくりを目的とした活動を継続しています。



地球温暖化防止のための取り組み

フジテレビでは、地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。東京都の環境問題対策に関する指針「総量削減義務と排出量取引制度」に沿って、より大幅なCO₂削減を定着・展開するため、第2計画期間(2015年～2019年)の削減義務率15%に向けて省エネ機器の導入やクールビズ、ウォームビズなどの対策を実施しています。

2015年度の結果として、
フジテレビ本社ビルの
二酸化炭素CO₂の排出量は、
23,459(速報値)トンで、15%の
削減目標を大きくクリアして
23%削減を達成しました。

地球温暖化防止「クールアース・デー」 環境省ライトダウンキャンペーンに参加

ライトアップ施設の消灯に2003年から参加。
20時～22時の2時間イルミネーション、外構照明
を消灯しました。

[2015年度実施日]

6月22日 「夏至ライトダウン」
7月7日 「クールアース・デー」

お台場議定書

—今、はじめよう!—

[1] 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベントなどメディアを通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

[2] 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ごみ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達促進や省エネルギー、省資源などのエコ活動を一緒に行動していきます。

[3] 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温室効果ガス削減やごみ分別などについて、目標を定めて活動し、その結果を公表します。さらに、世界の環境活動などの情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めていきます。

フジテレビ環境行動計画を「お台場議定書」と名付け
(2007年策定)活動の柱としています。

3Rの取り組み

全社で地球環境改善のための取り組みを実施 3本の矢 キャンペーン



リサイクルのリサちゃん



1. リサイクルのためのゴミ分別

オフィス内でゴミの**11分別**を実施。
毎週分別率をイントラネットで開示し、協力を呼びかけている。

2. リサイクル(封筒、手提げ袋、文房具用品等の使いまわし)

3. CO₂を削減(スイッチオフによって電気の使用量を削減)

この3つを柱とした「**3本の矢キャンペーン**」で
3Rを推進しています。

2015年度の
ゴミ分別率は
80.7%と
目標**80%**を
クリアしました。

社内の 3R	REDUCE (リデュース)	REUSE (リユース)	RECYCLE (リサイクル)
	発生抑制	再利用	再生

リサイクル・省資源への具体的な取り組み

● 全社をあげて大規模なフリーマーケットを開催！

毎年、夏のイベント期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社内にてチャリティ・フリーマーケットを開催しています！社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。掘り出し物を狙って、開始前からお客様が列を作って並ぶほどの人気イベントです。2015年の売り上げは、合計**106万9,301円**となり、これを全額FNSチャリティキャンペーンに寄付しました。



[2015年8月7日開催]

● 廃棄テープのリサイクル・再利用

指定回数使用したテープを破棄する際には、データをすべて消し手作業で分解、部品ごとに仕分けしてリサイクルしています。この作業は、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながら行っており、磁気テープは「量の芯」などになり、プラスチック樹脂は「自販機の取り出しカバー」等になって、再び私たちの生活に役立っています。

また、『めざましテレビ』『とくダネ!』などの情報番組では、資源の有効活用とコスト削減のため、2010年から各種メディアを再利用するプロジェクトを実施。再利用テープを使用することで、2015年度は約**1,290万円**のコスト削減となりました。

2015年度からディスク方式のカメラと「ノンリニア編集システム」へ移行し始めており、撮影・録画用のディスクをほぼ半永久的に再利用できるようになりました。これで記録用メディアを破棄する必要がなくなる傾向にあります。

社内でリサイクル パーティ♪



社内の掲示板で、不要になったものを「あげたい」人と「もらいたい」人をマッチングさせています。5月には、初めて実物を持ち寄ってリサイクルパーティを開催！約300点の品物が「もらわれ」、参加した50人以上の社員・スタッフの交流の場にもなりました。



地域の美化活動に積極的に参加しています！



お台場エリアの清掃活動を継続しています。ゴールデンウィーク前や夏のイベントの前後などに清掃を行っている他、フジ・メディア・ホールディングス全体での合同清掃活動も年3回開催。さらにお台場エリアに本社を置く企業からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」の清掃活動にも毎回参加するなど、地域の美化に貢献しています。

花と緑のフラワーフェスタ

～臨海副都心チューリップフェスティバル～にむけて球根植え

臨海副都心まちづくり協議会の環境事業の一環で、水と緑豊かな臨海副都心(江東区有明地区シンボルプロムナード公園)に、人を引きつけるチューリップを活用し、都会にしながら季節感や華やかさを感じられる新たな景観づくりを行っています。今回はまちづくり協議会会員企業に加え、武蔵野大学とも協働し、22社100人の社会人と学生231人の合計331人が参加！フジテレビからも25人が参加し、青海地区と有明地区を合わせて約10万球のチューリップ球根を植えました。



学生さんと楽しく球根植え！



4月、キレイに咲きました！

ゲームを通じてエコ活動！

課題クリアで“リアルに”マングローブが増える！

フジテレビ公式ゲームサイト「フジテレビ★プラネット」などで遊べるPCゲーム「マングローブと不思議なクマたち」では、「マングローブを植林しよう！」キャンペーンを実施。ひとりのユーザーが課題をクリアすると、石垣島にマングローブを1本、実際に植林。多くの生き物の住みかとなり、地球温暖化防止効果も期待できるマングローブ。地元の皆様のご協力で、予定していた上限本数2万本が植えられました。



「マングローブと不思議なクマたち」 <http://www.fujitv.co.jp/game/kumang/>



災害復興支援 BCP対策

Support for Reconstruction of the
Disaster-affected Areas
& Business Continuity Plan



オリジナルの被災地支援活動を展開

フジテレビずっとおうえん。プロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地支援活動を継続して行っています。発災直後は、物資を直接届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどを実施。2012年からは、大人、お年寄りにも支援対象を広げ、被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、「新たなコミュニティづくり」のお手伝いをしています。

活動をネット中継



豪雨被害に遭った茨城県常総市で、クリスマスイベントを開催した際には、ネット報道チャンネル「ホウドクキョク」でイベントの様を生中継するとともに、常総市の現状を伝えました。

2015年度実績

楽しいイベントを幼稚園・保育園で実施

11月6日 宮城県多賀城市にて食育イベント
せいがん幼稚園／仙台市蒲町幼稚園

12月4日 岩手県花巻市にて
ラフくん・ミット君のクリスマスイベント
湯口大谷幼稚園／大谷幼稚園

12月15日 茨城県常総市にて
ラフくんのクリスマスイベント
小貝保育園&豊田幼稚園にて



「あなせん」×うつくしまふくしま未来支援センター
“キャリア支援”の一環として福島の中・高校生にアナウンサーが特別授業

6月20日 福島県福島市立松陵中学校
9月2日 福島県立浪江高校
11月4日 福島県立小高商業高校
2月25日 福島県立安達東高等学校



これまで **163**ヶ所 約 **16,880**人を対象に実施

テレビ局ならではの被災地復興支援活動

テレビ美術の力で子どもたちを笑顔に！ 「こども笑顔プロジェクト」

伊豆大島を訪れて



台風被害から1年半後（イベント開催当時）大規模な被害を受けた場所に行ってみると、土砂で流されたあとには1輪の花が咲いていました。

山頂部では復旧作業が行われていましたが、復興にはまだ時間がかかるとのこと。

徐々に周囲の関心が薄れかけている時こそ、子どもたちを笑顔にする活動の意義を感じました。

フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地復興支援活動。

2015年度は2014年10月に台風26号の被害にあった伊豆大島で開催しました。テレビ美術の裏側を紹介しつつ、地元の子もたちと「のこぎり体験」や「輪ゴム鉄砲」を作るコーナーも！さらに人気キャラクターに扮して写真撮影をするなど、テレビ局ならではの企画で多くの方々に楽しんで頂きました。

これまで計4回実施

2013年10月 岩手県大船渡市

2014年10月 宮城県名取市／岩手県宮古市

2015年4月 伊豆大島



伊豆大島元町港待合所で開催



のこぎり体験



ラフクんと記念撮影



ハカ殿に扮装中

番組と連動

めざましテレビ「Tattonプロジェクト」



東日本大震災による津波で、岩手県、宮城県、福島県あわせて19,302ヘクタールが海水に浸かり稲作が不能となりました。そこで、農地に除塩効果があるという綿花を植えて田んぼを再生させようという取り組みが、この「Tattonプロジェクト」です。朝の情報番組『めざましテレビ』による番組連動型の復興支援プロジェクトで、震災直後の2011年5月から約5年に渡り継続しています。

2015年度は新たに仙台の老舗農家「株式会社舞台ファーム」からTatton史上最大の160アールの農地が綿花畑になりました。これまでの東松島を中心とした圃場もあわせ、Tattonの綿花畑は3ヘクタール近くに成長しています。

今年度は新たに、3組のタレントが参加してくれました。仙台在住のMONKEY MAJIK、大原櫻子さん、鈴木奈々さんが植え、除草、収穫作業などを行いました。



BCP対策 放送を継続する責任



毎年 春と秋に「防災ウィーク」を実施

放送を継続することは、メディアとしての重要な使命です。そのため、フジテレビでは2011年から「防災訓練ウィーク」と称し、社内で働く社員・スタッフを対象とした1週間にわたる防災訓練を春と秋に行っています。

2015年度は、まず9月28日～10月2日の5日間、災害時は会社にいる誰もが防災リーダーになれるよう、放送を継続するための実践的な訓練を行いました。5日間で600人以上の社員・スタッフが参加。フジテレビ流『自助・共助・公助』を社内に浸透させるべく、芝消防署の協力のもとに各訓練項目を実施しました。



フジテレビ流『自助・共助・公助』

- 『自助』自分の体は自分で守る
- 『共助』迅速な救助で仲間を守る
- 『公助』放送を維持し長期的に被災者を支援する

● 秋の防災ウィーク 訓練内容

- 「クライシスマネジメントチーム」の発足
- 大規模地震対応模擬訓練
- 本社ビルの災害備蓄品保管場所や防災関連施設の見学
- エレベーター緊急停止体験 ●負傷者搬送訓練
- 非常食試食会・災害備品展示 ●緊急救護訓練
- 普通救命講習 ●出退社支援訓練(徒歩・船舶)
- 初期消火訓練 ●全社一斉避難訓練

● 帰宅困難者受け入れ訓練を実施

2016年3月7日～11日の「春の防災ウィーク」期間中、帰宅困難者受け入れ訓練を初めて行いました。多くのお客様でにぎわうお台場。大震災発生時にはその社会的責任から、帰宅困難になった方々に対し、社屋の一部を一時滞在施設として提供する準備を整えました。



最終日には、全社一斉の防災訓練



芝消防署
永井秀明署長



放送継続のため自分たちにできることは何か、「みんなが主役」という考え方は素晴らしい。訓練を5日間にわたって行うのも他に例がない。しっかりと盲点をつかんでおり、毎年バージョンアップしているので、これからも継続してほしい。

FNN大規模災害訓練放送

系列各局と協力して毎年大規模な災害訓練放送を実施しています。

2015年度は、四国沖で南海トラフ大地震が発生し、最大震度7、紀州半島、四国、九州沿岸を巨大津波が襲うという事態を想定して実施。系列各局からも応援取材団を組み、小型中継機器を多用した放送をシミュレートしました。訓練で浮かび上がった問題点を分析し各局の態勢作りに活かしています。



最新の災害情報を見やすく提供

ニュースと災害情報がワンストップでみられるアプリ

FNNニュースアプリ

政治・経済・社会・国際・スポーツ・エンタメ…毎日・時々刻々と発生するニュースをスマートフォンで手軽に視聴することができるニュース・アプリです。

ニュース速報など緊急性の高い重要な情報はプッシュ通知でお知らせしています。地震、津波、気象、火山、河川氾濫などの速報サービスに加え、全国の自治体が発表するLアラートとも連携し、避難情報にも対応。より防災・減災に役立つツールにバージョンアップしました。



トップ画面 火山情報 避難情報

“被災地のいま”を継続的に配信

ローカルTime

東日本大震災から5年…いまだ復興途上にある“被災地”に寄り添い、“被災地のいま”を継続的に伝えるため、岩手、宮城、福島県の3県内で放送されているローカルニュースを、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルを通じ、全国に向け毎日配信しています。3県の震災特番なども配信しています。

ローカルtime <http://www.fnn-news.com/localtime/>

3.11忘れない～FNN東日本大震災アーカイブ～

東日本大震災に関する報道を目的に収集された、大地震や大津波、それによる被害の実像等を伝える映像群をアーカイブ化し、日本語と英語の字幕表示も付けて、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルで全世界に向け公開しています。「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称ひなぎく)」とも連携しています。 YouTube公式チャンネル <https://www.youtube.com/user/FNN311>

視聴者が“取材”した映像を投稿

● FNNビデオPost

視聴者からの投稿を受け付けるサービスです。専用のスマートフォン・アプリで、動画や写真を、簡単に送ることができます。毎日・全国各地で発生する様々な事件や出来事…そうした情報を、より広く、「視聴者の視点」で集め、日々のニュースでも紹介しています。「視聴者とともに創るニュース」を目指しています。



データ放送画面に英語で防災情報

災害情報は、海外からの旅行者にも、日本に滞在する外国人にも重要な情報です。日本語の災害情報を英語に自動変換しリアルタイムでデータ放送画面に表示するシステムをテレビ局として初めて開発、実用化しました。[2015年3月31日～]

フジテレビのデータ放送画面(リモコンのdボタンを押すと情報が揭示される画面)で、震度3以上の地震、津波などの自然災害の発生情報を英語でも知ることができます。



英語で地震情報を表示



その他の復興にむけた取り組み



フジ・メディア・ホールディングスで桜の苗を寄付 「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震による津波、さらに放射能被害を受けた福島県で、「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス各社は2013年度から協賛しています。2015年度はフジテレビなど合わせて17社が195本の桜を植え、これまでの植樹本数は合わせて635本になりました。



2016年1月21日に桜の苗の植樹に行きました！

活動をネット中継



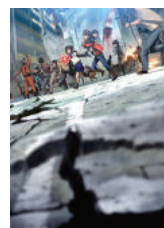
フジテレビのネット報道チャンネル「ホウドウキョク」で植樹の様相を生中継。「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」の責任者で、NPO法人ハッピーロードネットの西本由美子理事長とともに福島の実況を伝えました。

アニメを通じて防災意識を

東京マグニチュード8.0

オリジナルテレビアニメ『東京マグニチュード8.0』（2009年放送）は、巨大地震により被災した東京で生きる少女を描き、危機管理、防災意識をもたせる内容で、現在「東京臨海広域防災公園」常設の映像ホールにて上映中です。また防災関連施設との連携もっており、2015年は、10月から11月に行われたイベント「いのちを守る 防災CAMP」（全国イオンモール6ヶ所にて開催）に協力し、総集編の上映を行いました。

©東京マグニチュード8.0製作委員会



ネパール大地震の支援で 「サザエさん募金」を発動

2015年度、ネパール大地震の際に、「サザエさん募金」を発動し、ユニセフを通じて被災した子どもたち支援のために寄付しました。



©長谷川町子美術館

<寄付総額>
2,268万5,912円

笠井アナ出版本の 印税を全額被災地に寄付

『とくダネ!』の笠井信輔アナが被災地取材した体験を赤裸々につづった本「僕はしゃべるためにここへ来た」（2011年11月出版）の印税を全て被災地へ寄付しています。



<これまでの寄付総額>（2016年2月現在）
344万5,000円

※寄付先：社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団から被災地へ

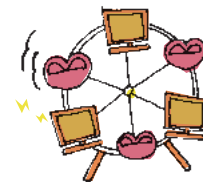
『SMAP×SMAP』で震災の義援金・支援金募集の呼びかけを継続

“被災地を忘れてはいけない”という強い思いで、『SMAP×SMAP』（毎週月曜22:00～22:54放送）では、東日本大震災後の2011年3月21日の放送以降全てのオンエアで「SMAP」による支援金の呼びかけを行っています。〔2016年3月21日放送分で通算225回。2015年度は43回放送〕



視聴者とともに

Stakeholder Dialogue



視聴者・国民に信頼され愛されるメディアであるために

番組審議会

番組審議会は、放送番組の適性を図るため、放送法に基づき全ての放送局に設置されている審議機関です。2016年4月現在、有識者で構成された審議委員は9人。原則月に1回(8・12月は休会)、様々なジャンルの番組を審議対象に委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。



議事内容は出席者を通じ制作現場へフィードバックされ、番組作りに活かされています。また議事録ダイジェストを社内用に共有、概要はフジテレビホームページに掲載する他、『新・週刊フジテレビ批評』内でも放送し社内外に広く公表しています。

2015年度審議対象番組

『みんなのニュース』、『ようこそ、わが家へ』、『水曜歌謡祭』、『ワイドナショー』、
『終戦70年ドキュメンタリー 私たちに戦争を教えてください』、『バイキング』、『オトナ女子』、
『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』、『消防隊だけが撮った0311～彼らは「命の岩」となった～』

社外モニター制度

視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なリポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載や冊子の配布を通じて、社内でも共有しています。

また月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。



視聴者の声・週報/モニターレポート

- 視聴者の代表とも言えるモニターの方に番組への意見を直接聞くコンプライアンス懇談会を開催しました。



2016年2月19日、モニターの方を視聴者の代表としてお招きし、番組制作者やスタッフ・社員と懇談する場を設けました。

モニターの方が見ている嫌いな瞬間ランキング

- 1位 内輪ネタ
- 2位 長時間番組
- // いじめ・差別につながる企画
- 4位 ピー音・銃撃音
- // スタッフ・観客の笑い声

自社批評番組を24年間にわたって放送

『新・週刊フジテレビ批評』 毎週土曜5:00~6:00放送



夏のイベントで「こどもフジテレビ批評」を開催 今、子どもたちは“テレビ”をどうみているのか
『週刊フジテレビ批評』は、1992年に始まった「テレビ番組でテレビに関する批評をする」民放初の自己批評番組です(詳細は9ページ)。2015年度は初の試みとして夏のイベント「お台場夢大陸」で、「こどもフジテレビ批評」と題した企画を4回開催。子どもたちと番組制作者とが直接意見を交わし、番組作りにフィードバックするというものです。

小学生から高校生まで毎回5~6人が参加し、番組についての素直な感想や、日々テレビをどう見ているかなど意見交換をしました。



子どもたちと語る『FNS27時間テレビ』
明松功チーフプロデューサー(右)

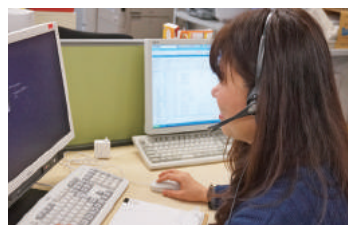


《テーマとなった番組》

- 8月1日 『FNS27時間テレビ』
- 8日 終戦70年ドキュメンタリー
『私たちに戦争を教えてください』
- 15日 月9ドラマ『恋仲』
- 29日 『めざましテレビ』

視聴者の声を聞く

テレビは不特定多数に向けた放送という性格上、視聴者一人一人の様々な反応をきめ細かく知ることはできません。そのため、“電話”や“ホームページからの投稿”によって視聴者総合センターに寄せられる視聴者からのご意見(賞賛・要望・不満・問い合わせなど)は、直接番組制作者に伝える事ができる、大切な“声”なのです。近年、“テレビ離れ”が叫ばれる若い世代の、よりリアルでダイレクトな声にも耳を傾けるべく、毎日主要番組のTwitterにも目を通して頂いています。視聴者総合センターは、視聴者の皆さまの声、フジテレビに寄せられたご意見すべてに耳を傾けることで、テレビを見ている人が今何を思い、何をテレビに求めているのかを肌で感じながら、「視聴者に寄り添う」番組作りをサポートしています。



●「視聴者の声」の社内へのフィードバック

電話・投稿・Twitterからの貴重な「視聴者の声」は、「日報」として毎日社員にメールで配信し、社内ホームページの掲示板にも載せています。「フジテレビの最も大切な商品=番組」への直接的な反響という意味で、「寄せられたご意見をそのまま掲載する」=「視聴者が感じた率直な反応をニュアンスを変えることなく掲載する」ことを基本としています。視聴者の方々の感覚や社会全体の空気感を含めてフィードバックし、番組作りの参考にさせて頂いています。

また、「視聴者の声」の中から、反響の大きかったものや改善すべきと思われるものを週報としてまとめ、各部署にメールで配信する他、月報も作成し、系列局に配布したり、番組審議機関への報告用資料として活用しています。

DATA

2015年度に視聴者の
皆さまから頂いた声

- 電話
16万3,663件
1日約300~1,600件
(1日平均447件)
- 投稿
35万5,748件
1日約500~7,000件
(1日平均972件)



人材育成と職場環境

Organization and Human Resources



人材育成

● 人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も行っています。障がい者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、CG、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。

● 研修制度

社員一人一人が、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるような様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。

フューチャーキャンプは、各年代の社員が参加するグループワーク研修。組織や年齢にとらわれず、未来のフジテレビのあるべき姿を社員全員が共有できる取り組みを行っています。その他にもそれぞれの階層で求められる知識獲得を目的とした入社年次別研修や各専門分野の講師を社内外から招き、日常業務に活かせるような人事セミナーを開催しています。



新入社員教育の一環として社内のゴミが最終的に集まるストックヤードの見学を行っています。

働きやすさを支援する制度

働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。

● 育児支援

小学校就学前まで休職を取ることができ、小学1年生の5月末まで最大2時間の時短を取得できます。また、ベビーシッターや学童保育などの特別補助もあります。復職前にはスムーズな職場復帰をサポートするため復職者懇談会を行っています。



先輩ママがアドバイス

● 復職支援

長期の傷病休職から復職する際に、円滑に復職できるよう、復職支援制度を設けています。

● 介護支援

1年間の介護休業もしくは一日最大90分までの時短を取得できます。介護用品や訪問介護などの特別補助もあります。

● 社員の個人的な社会貢献の支援

社会貢献活動に参加する場合、休暇を取りやすくなるよう支援しています。

女性活躍推進法

これまでも男女を問わず社員が活躍できる職場環境づくりを進めてきましたが、女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

目標1

「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

平成27年度実績 **32.3%**

目標2

「労働者に占める女性労働者の割合」で20%以上という国の定める目安の値を中長期的な期間でも維持できるように努力する。

平成28年3月 **24.7%**

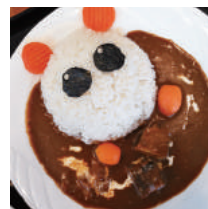
職場環境

● 社内食堂

社員の健康のため、社内食堂ではランチ時にサラダ・スープや、ヘルシーな「バランスごはん」を提供しています。また、番組・映画などと連動させたブームアップ企画や昭和女子大とコラボした「Health&Beauty Lunch」、寿司カウンターなどもあり、社員のリフレッシュになる楽しい食事の場を提供しています。



レインボーブリッジが一望できる食堂



ワールドカップバレーのブームアップに！
パバちゃんカレー

社内親睦イベント



年1回開催される社内親睦ボウリング大会には、毎回400人以上が参加し、局對抗戦、個人戦で優勝を競います。

社員の健康と社会貢献

● 健康維持

健康相談センターでは、各種診療項目の診察の他、常駐の産業医が社員と定期的に面談を行い、きめ細やかに心身の健康管理をサポートしています。また、健康診断に加え、人間ドック、脳ドック、婦人科検診を行い、社員の疾病予防に全力を注いでいます。「湾岸スタジオビル診療所」では、社員に加え一般の外来診療も行い、地域医療の一助となっています。

● 「がん対策推進企業アクション」 推進パートナーに参加

「がん検診受診率50%越を目指す」という厚生労働省の委託事業である国家プロジェクトに参加。早期発見・早期治療による人材損失の回避と経営基盤の強化を目指し推進パートナーとして検診受診を促進しています。

● 献血の実施

血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内で献血活動を実施しています。

● リフレッシュ

マッサージルームを健康相談センター内に設け2名の施術者が交代で予約を受け付けています。また、番組制作に携わる社員・スタッフが多く勤務する「湾岸スタジオ」には、卓球コーナーを設置。マッサージチェアもあり、健康増進やメタボ解消の他、人々の交流の場としてにぎわう24時間利用可能な人気のリフレッシュ空間となっています。

● 歯の妖精「Tooth Fairy」 プロジェクトに参加

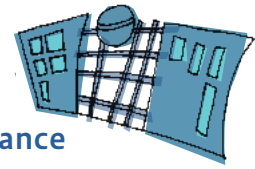


日本財団が日本歯科医師会と協同して行っているプロジェクト。歯科治療で取り外した撤去金属や入れ歯を寄付し、その中に含まれる金やパラジウムなどをリサイクルした資金で貧困や重い病気と闘う子どもたちを支援しています。



マネジメント

Human Rights / Corporate Governance / Compliance



各種ハンドブックを
全社員・スタッフに
配布



放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」（一般社団法人日本民間放送連盟発行）を全社員・スタッフに配布しています。

人権について

この世に生きる全ての人間は性別、年齢、国籍、宗教を問わず、生まれながらにしてかけがえのない存在です。同時に全ての人が人間らしく生きる権利を持っています。この権利は全ての人に平等であり、誰であれ決して奪うことは出来ません。そして、この権利を社会全体で守り、尊重することによって多くの人が自由に、そして平和に暮らせる社会が築かれていきます。こうした人間の権利、それが「人権」なのです。

フジテレビとして人権については、まず放送にあたり番組基準を定めています。その基本方針の第1条を「基本的人権の尊重など民主主義の原則を貫き、公平で平和な自由社会を守ることに努める。」としており、その番組基準を基に、常に取材、番組制作、放送を心掛け、放送番組で人権を侵害することのないよう真摯に取り組んでいます。

【人権セミナーの開催】

2016年4月4日「一般市民の人権について考える」

講師：梓澤和幸弁護士

2016年5月9日「松本サリン事件と報道被害」

講師：河野義行氏（松本サリン事件被害者）



梓澤弁護士セミナーには、約110人が出席

放送による人権侵害はあってはならないことで、番組制作に携わるテレビ制作者たちに改めて警鐘を鳴らすため、今後も継続して人権に関するセミナーを開催していく予定です。

コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を持っています。そして、テレビが国民にとって身近なメディアであること、よって社会に与える影響は大きいことを十分に認識し、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう心掛け、放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を果たして参ります。

内部統制システム

フジテレビは、「業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議」を2008年10月に決定し、同時に施行された「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」等に基づき、社内体制の整備等を行い、法令・定款順守の実効性の確保を図っています。そして、2015年5月1日に施行された「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」（平成27年法務省令第6号）への対応も行いました。役員が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守し、適正な職務執行を行うことはもちろんのこと、健全かつ誠実に実行される業務が、効率的に機能する内部統制システムの構築にむけ、たゆまぬ検討を行っています。

▼詳しくは、こちらをご覧ください。

「業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議」http://www.fujitv.co.jp/csr/management/internal_control_system.pdf

● 整備状況

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令等に適應することを確保するための体制及び損失の危険の管理に関する体制の概要

- 取締役及び使用人は、フジテレビの経営理念・経営基本原則に基づいて制定した「フジテレビ行動宣言」を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。
- フジテレビは、法令・定款遵守の実効性を確保するため、以下のとおり社内体制の整備等を行います。

組織の構築

代表取締役社長は、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」(下掲(2)に記載)に基づき、コンプライアンス等責任者となり、関連業務を統括。代表取締役社長は、その補佐役としてコンプライアンス等担当役員を任命するとともに、各局からコンプライアンス等担当者を指名します。また、コンプライアンス等担当役員は、コンプライアンス等責任者が指名した委員によって構成されるコンプライアンス等委員会の長となり、コンプライアンス及びリスクの管理に関する対応策の検討並びに整備等を行います。

体制の整備

コンプライアンス等責任者は、健全に行われている業務に十分配慮しつつ、コンプライアンス及びリスクの管理の強化を図るための体制の整備に加えて、財務報告の信頼性を確保する為の内部統制システムの構築に努めます。

教育・研修

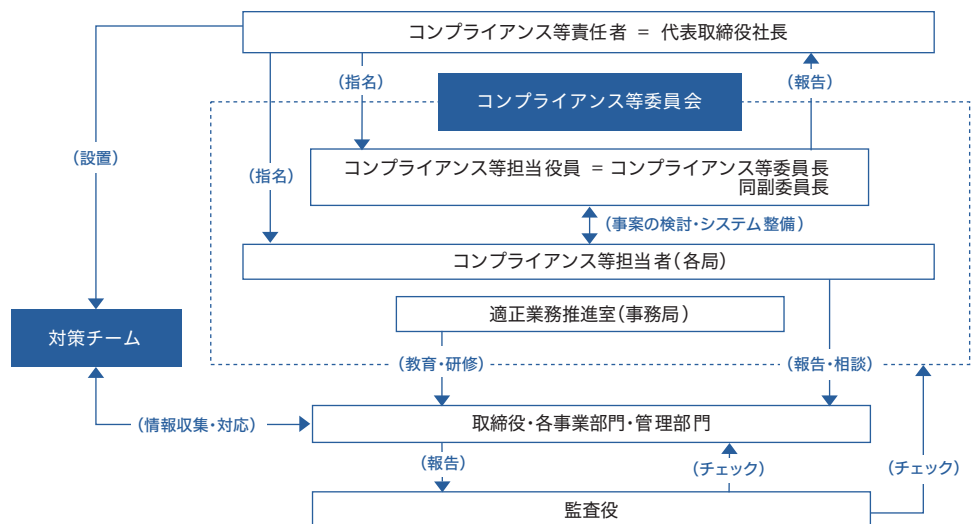
適正業務推進室は、コンプライアンス及びリスクの管理について、定期的な社内研修会の他イントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載等を適宜実施し、取締役及び使用人の理解を促進する活動を行います。また、コンプライアンス等担当者は、各部署内においてその意識を高める活動を展開することとします。

(2) 「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」の概要

当該規程では、コンプライアンス及びリスクの管理に関する基本理念やフジテレビの社員としての適切な行動を示す他、各部署内において経営に重大な影響を及ぼす事案が生じた場合にコンプライアンス等責任者が対策チームを設置し、当該対策チームが情報収集及び対応策の検討等必要な一切の業務を行なう旨を定めています。

(3) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制の概要

- a) 取締役及び使用人は、監査役に対し、以下に定める事項について発見次第、直ちに報告を行います。
 - ・業務又は財務に重要な影響を及ぼすおそれのある事実を知った場合。
 - ・取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実を知った場合、または社会通念に反する行為が発生する可能性が生じた若しくは発生した場合で、当該事実または行為が重大である場合
 - ・その他緊急・非常事態を知った場合
 - b) 取締役及び使用人は、監査役に対し各部門における主要事項及び内部統制に関する部門の活動概要などについて定期的または必要に応じて報告を行います。
 - c) 取締役及び使用人は、監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。
- 内部統制の仕組みは以下の通りです。



● 情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。また、特に業務過程で取得した多くの個人情報については、「個人情報に関する基本方針」および「フジテレビホームページに寄せられた個人情報の取扱と保護について」に基づき保護対策を講じるなど、情報セキュリティの適正な運用と管理を進めています。

詳しくはこちらをご覧ください。フジテレビ情報セキュリティ基本方針
http://www.fujitv.co.jp/csr/management/security_basic_policy.pdf

● 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

2011年10月、東京都暴力団排除条例が施行され、これを受けて日本民間放送連盟（民放連）が「反社会的勢力に対する基本姿勢」を発表し、「出演契約における反社会的勢力排除についての指針」をまとめ公表しました。適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責任であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。フジテレビは、この民放連の「基本姿勢」と「指針」を遵守し、施策を講じております。

詳しくはこちらをご覧ください。日本民間放送連盟HP <http://www.j-ba.or.jp/>

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方の前提として、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人々が平和に共存し心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めます。そのためには、基本的人権の尊重など民主主義の原則を貫いて公平で平和な自由社会を守ること、自主自律・不偏不党の立場を堅持し、真実の伝達と品位ある放送の確保、また適確な情報と健全な娯楽の提供により、安全で心身ともに豊かな生活がおくれる社会の実現、さらに公共の福祉と文化の向上に寄与するとともに、自然環境を守りつつ、産業・経済の発展と国民生活の充実に貢献することに努めます。そして常に社会全体に思いを馳せ、「高い法令遵守の意識」「使命感」を持ち続けなければならないと認識しています。

一般的に「コンプライアンス=法令遵守」と理解されますが、それだけに留まらず民放連が定める「放送基準」の準拠や「報道指針」を策定する等より高い倫理観を醸成し、社員への持続的な啓発指導を通じて、社会からの信頼に誠実に応えていきたいと考えています。

詳しくはCSRホームページ内「内部統制」をご覧ください。
<http://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html#internalcontrol>

● フジテレビのコンプライアンス体制

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しております。

● コンプライアンスの取り組み

コンプライアンス懇談会

コンプライアンス懇談会は、社員やスタッフに対してコンプライアンス意識の醸成、放送リテラシーの向上、最新の考え方や理論の情報吸収を目的として開催しています。

コンプラ・ワークショップ

内外から講師を招聘してコンプライアンスにまつわる情報を提供する30～40人規模のアットホームなワークショップです。こちらもコンプライアンス意識の醸成と放送リテラシーの向上を目指しています。



eラーニング コンプライアンス研修

“考えながら”そして“楽しみながら”コンプライアンスの知識と意識を身につけてもらうことを目的に、社員のみならず、フジテレビで働く全スタッフを対象(約3,500名)に毎年「eラーニング コンプライアンス研修」を実施しています。考査や法務、コンプライアンスの相談例を元に「具体的な問題」を多く導入、より実践的な研修を目指しています。



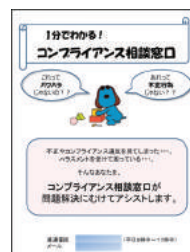
e-ラーニング表紙

番組制作向上ワーキンググループ

コンプライアンス委員会に紐づく形で2014年9月に発足したワーキンググループです。制作現場に対して非制作セクションメンバーの“視聴者に近い率直な目”で、各番組の演出や具体的事例について意見交換を行う会議です。2015年度は5回開催し、番組演出やコンプライアンス事例などについて話し合いました。

コンプライアンス相談窓口

2009年以来、法令違反・コンプライアンス違反の防止と早期是正を図るため、「コンプライアンス相談窓口」(以下、「相談窓口」という)を設置しており、フジテレビ社員だけでなく、局内で働く全ての関係者を対象とし、相談窓口担当へ直通電話もしくはメールにて通報できることとなっております。



リーフレットを作成して配布

標的型メールの体験型訓練

情報漏洩を防止するため、社内にて「ウィルス標的型メール」の体験型訓練を実施し、社員への注意喚起を促しました。また、社員およびスタッフに情報セキュリティの重要性を啓蒙するため、今年度もeラーニングで情報セキュリティ研修を実施しました。



体験型訓練メール画面

● 児童・青少年への配慮

民間放送連盟では「青少年と放送」問題に関する対応策(1999年6月)を打ち出し、「青少年向けの放送番組の充実」を掲げ、民放連会員テレビ局各社は「青少年の知識や理解力を高め、情操を豊かにする番組を各放送事業者は少なくとも週3時間放送する」と申し合わせており、毎年その番組を選定しております。2015年秋にフジテレビが選定した番組は以下の6番組です。

詳しくはこちらをご覧ください。日本民間放送連盟HP <http://www.j-ba.or.jp/>



世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与

第27回 高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞

PRÆMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU



2015年10月21日 明治記念館で行われた式典の様相

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。これまでの受賞者数は26ヶ国、139人で、フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げてサポートしています。

2015年の受賞者

絵画部門 横尾忠則(日本)
 彫刻部門 ヴォルフガング・ライプ(ドイツ)
 建築部門 ドミニク・ペロー(フランス)
 音楽部門 内田光子(イギリス)
 演劇・映像部門 シルヴィ・ギエム(フランス)



「高松宮殿下記念世界文化賞特番」を放送

フジテレビ 2015年11月3日 24:25~24:55放送 / BSフジ 2015年11月14日 15:30~16:00放送

日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与 フジサンケイグループ広告大賞

「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与するべく、1971年にフジテレビを中心として創設されました。現在、フジテレビはグループ各社と協力して賞の運営を行っており、2015年4月に44回目の贈賞式を終えました。

地球環境大賞

地球温暖化防止や環境保全活動に熱心に取り組む企業や団体などを表彰

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金(WWF)ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。

2015年4月9日には、第24回の授賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジテレビは、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。



第24回地球環境大賞の授賞式が、秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・港区の明治記念館で行われました。



第24回地球環境大賞は、トヨタ自動車株式会社

《新型燃料電池自動車(FCV)「MIRAI」の開発と販売開始が高く評価》

経済産業大臣賞	東レ株式会社
環境大臣賞	東洋ライス株式会社
文部大臣賞	山陽女子中学校・高等学校地歴部
国土交通大臣賞	森ビル株式会社
農林水産大臣賞	カルピス株式会社
日本経済団体連合会会長賞	住友ゴム工業株式会社
フジサンケイグループ賞	株式会社セブン&アイ・ホールディングス



特別番組『地球環境大賞2015 ～宇宙からの緊急メッセージ～』を放送



フジテレビ 2015年6月20日 10:25～11:25放送 / BSフジ 2015年6月28日 15:00～16:00放送

第三者意見



河川 真理子 かわぐち まりこ

大和総研主席研究員

1986年一橋大学大学院修士課程修了(環境経済)、同年大和証券入社。91年大和総研へ転籍。企業調査を経て、97年より、環境経営、CSR/SRIの調査研究に従事、2010年4月から大和証券グループ本社にてCSR室長、環境・CSR調査部長を歴任。2012年より 調査部長 主席研究員。担当は、CSR、ESG投資、エシカル消費、ソーシャルビジネス。

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
社会的責任投資フォーラム共同代表理事

民間放送事業者のCSR活動は非常に複雑な問題があります。しかし本報告書を読み、民間放送事業者としてのCSRのありかたを伺うことができました。またかつてバブル時代「軽チャー路線」といわれたフジテレビが、長期にわたり、真摯に社会と向き合っている姿も読み取ることができました。

冒頭の亀山社長とCSRプロジェクトチームのダイアログは、テレビ局員同士のホンネ対談のようなイメージですが、ここから民間放送事業の意義と課題が浮き彫りになっています。

ダイアログの中で亀山社長が指摘されているように、放送事業は放送法で「公共の福祉に適合するように規律」されています。つまり必要な情報を広くあまねく知らせ、経済活動を活性化し、世論形成や社会の意識づけを図る一方で、娯楽のコンテンツを提供する役割を果たさなければなりません。特にメインの地上波は無料で誰でもアクセスでき、経済用語でいう準公共財です。またその電波は割り当てられているので寡占事業でもあります。準公共財を提供する寡占事業という事業の性格から、放送事業者には極めて高い公共性が求められるのは明らかです。

さらに収益性を追求しなければならない民間放送事業者は、通常のほかの営利事業とは大きく異なる点があります。一般の営利事業は需要者がお金を供給者に支払う、市場メカニズムを通じた双方向の関係で、価格は需要量に見合うものになり需要者の動向反応は直接供給者に伝わります。しかし民間放送事業者の場合は、需要者(視聴者)ではなく、視聴者の需要を推測した第三者(スポンサー)が代わりにお金を支払うという三角関係です。需要量は視聴率という指標で測定されますが、その問題点は多く指摘され、スポンサーが払う価格と視聴者の需要はマッチするとは限らず、本来のニーズに合う番組ではなく、合わない番組が大量に供給されるリスクもあります。さらに、テレビという媒体を通じた発信なので、事業者(テレビ局員)が直接視聴者のニーズや反応を肌で感じるのが難しいです。

これらの課題に対する問題意識は、ダイアログの中にも認められます。それは、スポンサーから「高視聴率をスポンサーにアピールするのではなくお客さんの方だけを見なさい」と戒められたこと、映画を作って劇場で子どもがチケットを買う場面に遭遇して感動した、という社長のエピソードに象徴されています。

一方最近では、デジタル技術やネットの発達によって、必要なコンテンツだけを好きな時に見られるようになっており、需要の実

態はさらに分かりづらくなり、さらに広告媒体としての有効性も下がっているといわれます。結果として現場はどうなるか?視聴率から番組製作者が想定する「バーチャルな視聴者」の嗜好を念頭においた番組を作ることになります。

では、公共性を求められ厳しく規制される一方で、娯楽など私的な嗜好を追求しなければビジネスとして成り立たない、という事業のCSRはどのように整理できるか?

それは①放送・番組作りを通じて行うこと、②テレビ局のブランドと場所(フジの場合はお台場)を通じてできること、③映像・言葉・音楽・アートなどコンテンツを創るノウハウと人材を使ってできること、の3分野に大別されると思います。

まず①の放送番組作りについて。特集1の「伝える責任」の中で、戦後70年や東日本大震災5年の特別番組や、直近の熊本震災時の報道対応、視聴者とのインタラクティブな試みとして「ワイドナショー」が紹介されます。報道・番組作りの社会的責任を考えたコンテンツです。自社番組を客観的に評価・批判する「(新・)週刊フジテレビ批評」を24年間続けていることも紹介されています。これは、公共放送の質を担保するフジテレビの社会的責任の姿勢を示すものとして好感が持てます。しかし、その放送時間が土曜日の早朝というのが残念な点です。こうした報道の良心を示す番組、が亀山社長の指摘「ラブストーリーで環境問題を伝える」というような工夫も含め、日常のゴールデンタイムでも普通に放送されるように期待します。

②のイベントについては、特集2のグリッター8のお台場ライトアップをはじめとして、お台場夢大陸をはじめとしたイベントが紹介されています。いずれもフジテレビとお台場という知名度のあるブランドと場所を活用した取り組みです。イベントでは熱中症対策としてのミストマンが活躍するなど、温暖化でも通常の企業とは一味違う活動が紹介されておりテレビ局ならではの、「上手に難しい社会問題を伝える」CSR活動として評価されます。

③のノウハウと人材による活動としては、出前授業の「あなせん」や美術の出前授業など、テレビ局ならではのリソースを活用した活動が報告されています。

こうした活動は放送事業者の本業にかかわる取り組みとしてさらに強化していただきたい事業です。特に放送番組での取り組みは、特番や土曜日の早朝番組だけでなく、通常番組にも反映していただきたいです。

また、社会貢献活動としてのクリエイタ支援という地味な活動も

27年続けているヤングシナリオ大賞をはじめとして、学生映画製作、高校生の演出家発掘など、幅広く長く続けていて、放送業界のすそ野を広げる活動として評価されます。

また本報告書の印象深い点は「社員の顔」があちこちに見えることです。ダイアログでは、さまざまな業務の社員の状況が報告されています。また出前授業やイベントに参加している社員の活動や、バリアフリーや災害復興支援などの社員研修についても報告されています。テレビ局の番組は社会に親しまれていますが、その作り手である社員の顔はあまり見えません。この報告書では社長以下社員の目指すものや葛藤が報告されており、テレビ放送事業を身近に感じることができます。亀山社長が、社員が楽しまなきゃ、というもテレビ放送ならではの重要な視点です。

一方で、放送事業には落とし穴もあります。誤報道や娯楽番組のヤラセ問題、国際情勢に関しては海外の報道との大きな格差もあります。また、熊本震災の特集欄でも触れられていますが、報道姿勢の問題など、報道の影響力が大きい故の問題も少なくありません。こうしたネガティブ情報は、報告書を丹念に読むと読み取れますが、放送事業者としてどのような方針と体制で、こうした問

題に取り組んでいるか、という社の姿勢を示してまとめて報告してはいかがでしょうか？一般的に新聞を含めてマスコミは、社会や企業の問題を指摘批判するという立場上、自己の過ちを反省するのは苦手なように感じます。20年以上自社番組批判番組を継続されていることから、こうした自浄作用があるテレビ局だと感じましたので、さらにその姿勢を強化いただきたいです。

最後に、バブル時代、「軽チャー路線」といわれ、軽いイメージがあったフジテレビですが、ヤングシナリオ大賞、(新・)週刊フジテレビ批評、高松宮殿下記念世界文化賞、地球環境大賞など、20年以上も継続している地味で堅実な社会貢献の取り組みもここでは数多く紹介されています。こうした取り組みは継続することにも大きな意義があります。

また、バリアフリー対策としての字幕番組など、数値で取り組みを評価できるものは達成率の推移や目標もぜひ開示いただきたいです。こうしたテレビ局の顔が見えるオープンな報告書は社員と視聴者、スポンサーの間で、放送事業の社会的使命を広く考える対話のツールになります。そしてそこから得られた示唆をぜひ放送やイベントという本業に反映させ、社会からもっとも頼りにされるテレビ局のあるべき姿を目指していただきたいと思います。

編集後記



西上 均
にしうへ ひとし

放送文化推進局
CSR推進室長

2016CSR報告書に、貴重なご意見を頂きありがとうございました。

民間放送事業者が置かれている複雑な事業形態等をご理解いただいた上で、当社が行うべきCSRを①放送・番組作りを通じて行うこと、②テレビ局のブランドと場所を通じてできること、③コンテンツを創るノウハウと人材を使ってできること、の3つに整理して頂いたこと、そしてどれもがテレビ局のCSRとして意義深いものであることのご指摘により、私たちのめざすべき方向性がより明確になったように思います。

印象深い点として「社員の顔」が見える報告書であることを挙げて頂いたことも、とてもうれ

しく思います。ご指摘のとおり需要者(視聴者)の顔が見えにくい事業であるため、本報告書ではせめてこちらの顔を見せることによって視聴者と心を通わせたいという意図もありました。

今後とも視聴者のご意見・ご指摘に真摯に向き合うとともに、ご提言いただいた“メディアが陥りやすい落とし穴”にはまらないようにするための取り組み、さらにはより信頼される局になるため、字幕付与の達成率の開示等も検討して参りたいと思います。

当社ならではのCSRをさらに強化し、よりわかりやすい報告書にすべく努めてまいります。



商号
事業所

設立
放送開始

資本金
従業員数

代表取締役社長

株式会社フジテレビジョン
Fuji Television Network, Inc.
本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
TEL 03-5500-8888(大代表)
平成20年10月1日(新設分割による)
昭和34年3月1日
88億円
1,352名(2016年3月31日現在)
亀山千広



フジテレビCSR報告書 2016

2016年6月30日発行

ホームページでもCSRの取り組みを開示しています。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

